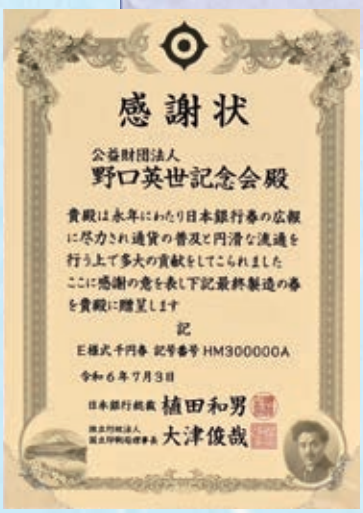
野口英世記念会報

第70号



目次

巻頭言 …… 1
第67回野口英世記念医学賞 …… 2
第67回野口英世記念医学賞を受賞して …… 澁谷　彰 …… 4
野口英世記念奨学生 …… 9
野口英世記念奨学生へのメッセージ …… 石原　玲 …… 13
第30回野口英世博士顕彰記念少年科学賞 …… 15
令和6年度野口英世記念会賞 …… 16
令和6年度野口英世記念高等学校自然科学系部活動助成事業 …… 16
野口英世博士顕彰記念事業 …… 17
第63回野口英世博士顕彰記念作文コンクール …… 18
野口英世記念館の動向 …… 21
野口英世記念奨学生　奨学生証贈呈式
第95回野口英世博士命日祭
感染症ミュージアムシアタールーム新設
救世観音祭礼
野口英世記念館で博物館実習
第148回野口英世博士誕生祭
駐ガーナ日本国特命全権大使義本博司氏来館
野口英世生家で年中行事
各地で行われたイベント …… 24
各地の賢覧会で紹介された野口英世
野口清作上京の地本宮駅に胸像建立
特集　おつかれさま、野口英世～20年間を振り返って～ …… 25
第23回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」 …… 30
日常の中にある大切なもの …… 上島　直美 …… 32
出前授業に行きます！ …… 34
品川区立伊藤学園六組「特別支援学級としての取り組み」について
品川区立伊藤学園　教諭　渡邊　萌香 …… 38
令和6年度の受入資料 …… 41
令和6年度　主な行事 …… 42
令和7年度　主な行事予定 …… 43
出前授業のご案内 …… 43
ご寄付のお願い …… 44
野口英世記念館・感染症ミュージアム案内 …… 45
表紙　寄贈された野口千円札の最終製造番号券と感謝状
裏表紙　売店で販売している野口英世起き上がり小法師

巻頭言

野口英世記念会は野口英世記念館と記念感染症ミュージアムの2つの展示館体制での2年目を迎えました。野口英世に全面的に焦点を当てた記念館、過去から現在までの感染症研究や感染症に焦点を当てたミュージアムと、異なる視点からの展示がなされています。このような2つのタイプの異なる展示館を有することで、来訪者それぞれの興味と期待に幅広く対応することが可能となっています。感染症ミュージアムはこれまで1階のみの展示でしたが、本年は2階にシアターを設置し、座ってビデオを見ていただくフロアーとしました。現在は「細菌とウイルス」及び「黄熱病との闘い　細菌学者野口英世」の2つのビデオを継続的に上映しており、これまで疑問に思っていたことを、楽しく学習していただく場所となっています。

令和6年は新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類となって2年目を迎え、人々の生活にも変化がみられる年となりました。記念館および感染症ミュージアムの来訪者数は令和4年以降毎年増加し、新型コロナ以前、令和元年のレベルに近づきつつあります。今後は国内からの来訪者のみでなく、海外からの来訪者を増加させることにも尽力したいと考えています。

野口英世記念会は、生家の維持保存と公開、記念医学賞の授与、記念奨学金の貸与・給付、記念少年科学賞の授与を行うとともに、地域と連携した活動も継続しています。昨年に続き野口英世記念医学賞授与式を、受賞者はじめ来賓の皆様をお招きし猪苗代において執り行いました。感染症ミュージアム1階にはこれまで受賞された錚々たる研究者の皆様の写真が展示されています。ぜひご覧いただき本医学賞　67年にわたる歴史を知っていただきたく思います。

野口英世の人生・業績を小学生にも知ってもらう取り組みである出前事業は、福島県、宮城県、新潟県のみならず東北他県、日本各地からの依頼を受け行いました。本年度は２００校を超える小学校を訪問しており、これまでのスタッフではすべての依頼にお答えするのが難くなってきたことから、出前授業専属スタッフを1人増加し3人で活動しました。いずれも長く学校教育に携わってきた方々であり、本活動がより充実したものとなりました。

野口英世記念会はこれまで取り組んできた活動をさらに発展させるとともに、さらに新たな活動にも取り組んでまいります。今後とも皆様のご支援ご鞭撻をお願いいたします。

令和7年4月1日

公益財団法人　野口英世記念会

理事長　倉根　一郎

第67回野口英世記念医学賞

野口英世記念医学賞は、野口英世博士が生前に行った研究に関係のある優秀な医学研究に対し、その功績を表彰するものである。

受賞者

筑波大学 医学医療系
医学博士　澁谷　彰

澁谷　彰　博士

研究課題

免疫、炎症疾患の制御を目指した免疫受容体の研究

授賞式

令和6年11月16日　午後2時
野口英世記念感染症ミュージアム
（野口英世至誠館）

受賞研究課題概要

免疫反応は感染症やがんなどから身体を守る一方で、アレルギーや炎症などの病気を引き起こす諸刃の刃ともなります。免疫受容体は免疫細胞の細胞膜上にある蛋白で、侵入した病原体やアレルギー抗原、あるいはがん、炎症などの情報を最初にキャッチするセンサーとなります。したがって、免疫受容体は身体を守る免疫と病気を引き起こす免疫の両方に関与し、ヒトの健康に重要な役割を持っていると言えます。

澁谷博士は、長らく医師として内科臨床の第一線で活躍してきましたが、現在の医学医療では救えない難病の患者の診療を多数経験するうちに、基礎医学研究の重要性に気づきました。そこで、未知の免疫受容体を発見し、その働きを制御することができれば、有効な治療法のない疾患を克服することができるのではないかと考え、基礎医学研究者として免疫学の研究をスタートしました。その結果、DNAM-1 (CD226), MAIR-I (CD300a), MAIR-II (CD300c), Fcα/μR (CD351), Allergin-1 など の新しい免疫受容体を次から次へと発見しました。これらの多くがHLA国際ワークショップにて、新しいヒト白血球分化抗原 (Cluster of Differentiation, CD) として認定されました。

さらに澁谷博士は、遺伝子欠損マウスや疾患モデル動物などを用いて、これらの免疫受容体が、感染症、がん、アレルギー、炎症などの発症を防いだり、あるいは促進したりする働きがあることを解明しました。また、これらの免疫受容体の働きを制御する抗体を樹立し、免疫難病を治療できる可能性も示しました。さらに、大学発創薬ベンチャーを起業するとともに、筑波大学革新的創薬開発研究センターの初代センター長として、難病克服を目指して国内外の製薬企業と共同で抗体医薬を作製し、自らの基礎研究の成果を臨床応用するための開発研究を強力に推進しています。

以上のように、数多くの新しい免疫受容体の発見から臨床応用までを一貫して進めてきた澁谷博士の研究業績は、野口英世記念医学賞にふさわしい類い稀なものであると言えます。

授賞式次第

開式の辞　理事　太田　伸生
選考経過報告　選考委員長　木下タロウ殿
医学賞授与　理事長　倉根　一郎
式辞　理事長　倉根　一郎
来賓祝辞
福島県知事　内堀　雅雄殿
駐日ガーナ共和国特命全権大使　ジェネヴィーヴ・エドゥナ・アパルゥ殿
猪苗代町長　二瓶　盛一殿
筑波大学医学医療系長　高橋　智　殿
祝電披露
受賞者謝辞　澁谷　彰　殿
記念講演　澁谷　彰　殿
閉式の辞　理事　平山　壽哉

医学賞を受賞された澁谷彰博士夫妻

賞牌を受け取る澁谷博士

謝辞を述べる澁谷博士

研究概要ポスター

第67回野口英世記念医学賞を受賞して

澁谷　彰

はじめに

この度は輝かしい歴史のある野口英世記念医学賞を受賞し、身に余る光栄に存じます。選考委員長の木下タロウ先生を始めとして選考委員会委員の先生方、推薦いただいた筑波大学医学医療系長の高橋智先生、並びに野口英世記念会の関係者の皆様には心から厚くお礼を申し上げます。昭和32年の第一回からこれまでの歴代の受賞者は錚々たる日本を代表する世界的な研究者の方々ばかりで、その末席に加えさせて頂いたことは身に余る光栄であるとともに、これを機会に今後も一層精進し、賞に恥じないように社会に還元していかなければならないと身の引き締まる思いでおります。

生い立ち

私は秋田県の出身で、奥羽山脈と出羽丘陵で囲まれた横手盆地で生まれ育ちました。雪の多い土地で、かまくらで知られています。生家の近くには平安時代に当地に勢力を広げた源氏と地元の豪族との戦いであった後三年の役の跡地があります。幼少の頃の私は、しばしば熱を出しては幼稚園や小学校を休んでいたものでした。そのような日は、布団の中から旧家の高い天井を見上げ、その木目が作る模様を日がな眺め、空想に耽ってはまた眠り、一日を過ごしていたことを思い出します。往診の医師からは、「小学校に上がる頃まで生き延びられれば」と言われていたと、その後母からよく聞かされました。白衣や薬や注射さえも身近な幼少期でしたが、長じて高校生になってもなお、両耳の難治性中耳炎で1年ほどの入院生活を余儀なくされ、その後補聴器を必要とする難聴が残りました。

当時は、どこの家でも囲炉裏がありました。そこは家族が集まる団欒の場であった一方で、危険な場所でもありました。近くに住む幼馴染は、囲炉裏の周りで遊んでいるうちに、誤って頭から落ちて炭火で大火傷をおいました。冬には、豆たんや練炭を置き、やぐらを被せて炬燵としていましたが、私はその中に潜り込んで眠ってしまい、一酸化中毒になったことがありました。近くの開業医に運ばれ、御自宅となっている診療所の2階の部屋に一晩寝かされ、すんでのところで命をとりとめたこともありました。野口博士の囲炉裏での事故は伝記の世界だけではなく、身近で現実的なものでした。その一方で、火傷による手指の不自由を乗り越えて、その後世界的な医学研究者となった野口博士は、まさに伝記の中の伝説の人として子供心に大きな影響を残しました。私がその後医学の道に進んだことの背景には、意識はしなくても、同じような境遇－比ぶるほどではないものの、私も多少の身体的ハンディを持つ－で、しかも同じ雪深い東北の地の偉人の存在もあったように思います。

臨床医として

その後、北海道大学医学部に入学し、北の大地での学生生活を謳歌し、無事に卒業して医師となりました。東京にある三井記念病院での研修医生活が始まりました。次から次へと様々な病気の患者さんに出会い、新しい知識と技術を学び、刺激に満ち、充実した毎日

でした。そのうち、アカデミアで専門領域を深く学びたいと思うようになりました。４年も過ぎようとした頃、縁を得て、筑波大学附属病院の血液内科のレジデントとなり、その後講師として大学教員となりました。血液内科の主な対象疾患である白血病や悪性リンパ腫などの血液がんは、治療により劇的に良くなったり、あっという間に悪くなったり、病状がダイナミックに変化する病気です。日夜緊張の連続でしたが、やりがいのある毎日でした。当時の最先端医療であった白血病に対する骨髄移植療法も手探りの中、初めて取り入れました。しかし、どんなに頑張っても治療の甲斐なくお亡くなりになった患者さんも数多くいました。私が主治医として直接担当し、お見送りした患者さんだけでも２００名を超えました。12年間に及んだ臨床医としての生活の中で、医学医療の限界を知らされました。

転機

そのような中で、専門領域の海外の論文を勉強したりするうちに、新たな医療を生み出すには、基礎研究によって新たな医学を切り拓くしかないと気づきました。また、研究は自然の真理を紐解き、知的好奇心を満たしてくれ、また常に世界につながっており、自分の可能性を拡げてくれるものとして魅力的でした。当時、理化学研究所筑波ライフサイエンスセンターにおられた中内啓光先生（その後筑波大学、東京大学教授、現スタンフォード大学教授）は、「何か、誰も見つけていないことを初めて見つけたら、すぐ世界で一番になれるよ」と、きわめて安易で無責任な話をされ、私も「そんなものか」ときわめて安易に納得し、それでは本気で研究をしてみようと思ったのでした。しかし、そのような研究が多忙な臨床医の片手間でできるようなものでもないと思い定め、アメリカに行って一から研究を学ぼうと決心しました。そこで大学に辞表を出したのですが、その時点ではまだ行き先が決まっていませんでした。たぶん順序が逆だったかもしれません。退路を断ったといえば聞こえはいいのですが、楽天的だが計画性がなく、しばしば場当たり的で深く考えない生来の私の性格が、よく表れていたと思います。基礎研究のトレーニングも受けたことのなかった私が、それは無謀だと周りの多くの人の反対もある中で、筑波大学での職を辞し、2歳になる長男と妻と一緒に渡米しました。３ヶ月したら38歳になる１９９３年春のことでした。

医学賞受賞された　澁谷博士

DNAX分子細胞生物学研究所

DNAX分子細胞生物学研究所は、米国のカリフォルニア州パロアルトにあるスタンフォードリサーチパークにありました。分子生物学の開拓者であり、ともにノーベル賞受賞者でもあったアーサー　コンバーグ博士やポール　バーグ博士らが設立した免疫学研究所でした。多くの著名な研究者がいる有名な研究所のわりには、2階建ての小さな建物であったのは意外でした。私は、当時その領域で日の出の勢いにあったルイス　ラニアー博士（その後、カリフォルニア大学サンフランシスコ校教授）に師事するために、インター

ネットがまだなかった時代にＦＡＸで手紙を送り、さらに渡米して直接インタヴューを受けたりして、何とか研究員として研究室に入れて頂いたのです。ここで、私の第２のキャリアは始まりました。私に与えられたテーマは、免疫細胞の一つであるナチュラルキラー細胞の活性化を担う未知の免疫受容体タンパクを見つけることでした。知識も経験もない初心者には、とてつもなくハードルが高いプロジェクトでした。研究所内の多くの研究者と議論しながら、昼も夜も、ひたすら実験に没頭しました。片道切符の戻る先の当てもない中で、研究成果を出さねばならないという必死の思いもありました。しかし、それ以上に本当のサイエンスというものを肌で理解し、その面白さに目覚めたのです。一つの実験データを見せるとラニアー先生は、次はこのような実験をしてはどうかと、次から次へと助言をくれました。しかし、ラニアー先生のような人が言うのだから正しいだろうとその通りにやっても、必ずしも結果は予想通りとなりませんでした。自然の本当の姿は、人智を超えているところにあることを学びました。３年経った１９９６年、やっと目的とした免疫受容体を発見し、DNAM-1 と命名し、報告することができました。この発見が私のその後のライフワークにつながるとは、当時予想もしていませんでした。この間、学んだ免疫学、細胞生物学、分子生物学、生化学の技術と知識と、そして何より真摯に科学することの楽しさと重要性を知ったことは、その後の研究者としての私の基盤となり、財産となりました。

恩師のラニアー博士と妻の恩師のオガラ博士と日光で

免疫システム

免疫は、〝疫（病）から免れる〟という意味を語源としており、ウイルスや細菌などの病原体から身を守ることを意味しています。しかし、これがどのような仕組みによるものかという特に近年の分子細胞生物学を用いた研究によって、免疫は必ずしも病原体ばかりでなく、自分の体（自己）と自分以外の宇宙空間のすべてのもの（非自己）を識別し、自己に侵入した非自己を排除する生体防御システムであることがわかってきました。たとえば、花粉や食物などのアレルギー抗原や移植臓器など、さらにはがん細胞までも非自己として認識します。自己と非自己の識別機構に異常が生じれば免疫が自己組織を攻撃する様々な自己免疫病を発症させます。種々の原因で生じる発熱などを伴う急性炎症あるいは慢性炎症などもまた免疫反応です。

免疫反応を担う免疫細胞（血液中にある顆粒球やリンパ球などの白血球がこれに相当する）は骨髄で作られ、全身をくまなく巡る血管やリンパ管を経由して全身のいたるところに到達してそこに留まったり、また循環を繰り返したりしています。免疫細胞は、全身のどの臓器、組織にも例外なく存在することから、免疫はどの臓器の疾患にも関与しうることが容易に想像できます。

基礎研究者として

渡米してから3年半後の１９９６年の夏、帰国し、幸いにも岡山大学の中山睿一教授（免

疫学）の教室で講師として、１９９８年には理化学研究所から筑波大学教授となっていた中内啓光先生の研究室に助教授として採用して頂きました。２００１年には理化学研究所での免疫アレルギーセンターの発足に伴い、自分の研究室を立ち上げることができました。２００３年に筑波大学で教授に昇任してからは、大学院生をはじめとした仲間も徐々に増え、その後研究室は最多で40名近い規模になりました。

私の研究室では、DNAM-1 が病気の発症にどのような役割をもつかなどを解明することに取り組むと共に、これに次ぐ新しい免疫受容体を発見し、免疫反応における役割を明らかにすることに目標を絞りました。免疫受容体は、細胞外からの刺激（情報）をキャッチして細胞内に伝達し、免疫細胞を活性化します。いわば、免疫反応の起点となっています。したがって、この免疫受容体の働きを制御できれば、様々な疾患に対する革新的な治療法の開発に繋がる可能性があると考えたからです。

よく柳の下に二匹目のドジョウはいないと言われます。しかし、様々な手法を用いて見つけることができました。それも二匹で止まりませんでした。しかし、これらがどのような働きを持つかは、調べてみなければ誰にもわかりません。まして病気にどのように関わっているかなど、到底予想はつきません。自然の本当の姿は、人間の頭で考えてわかるほど、単純なものでないことは、DNAX 研究所で学んだことでした。謙虚に、ただひたすら実験を重ね、その結果を冷静に、また客観的に考えていくしかありませんでした。その結果、新しく見つけた免疫受容体は、どれもユニークな働きを持ち、様々な重症疾患に関与することが明らかとなってきました。幸運としか言いようがありませんでした。

２０００年には、IgM 抗体の受容体を初めて見つけ、Fcα/μ 受容体（CD351）と命名しました。これは、20年以上にわたって多くの研究者が熾烈な競争をして探し求めていた免疫受容体でした。その後の研究で、本受容体が肺炎の原因菌として最も多い肺炎球菌などの莢膜を有する細菌に対する免疫反応や、毒素を産生する大腸菌などによる敗血症を制御することを明らかにすることができました。２００３年には、顆粒球やマクロファージなどの骨髄球系細胞に発現する2つの免疫受容体を発見し、MAIR-I（CD300a）, MAIR-II（CD300c）と命名しました。その後、これらが敗血症や炎症性腸疾患などを制御することを明らかにしました。最近、MAIR-I が脳梗塞などの虚血性疾患など、免疫疾患とは関連がなさそうな疾患にさえ重要な役割をになうことを見出しました。免疫システムの奥深さに今更ながら驚かされました。２０１０年には、すべてのアレルギー発症に最も重要な役割をもつマスト細胞に発現する免疫受容体を発見し、Allergin-1 と命名しました。これは、マスト細胞からのヒスタミンなどの化学物質の放出を強力に抑制することを見出しました。さらに、２０１９年には、アトピー性皮膚炎の自然発症モデルマウスの原因遺伝子として Clec10a という免疫受容体の遺伝子変異を同定しました。Clec10a はダニによるアトピー発症に重要な役割を担うことを明らかにしました。

研究室メンバーと筑波山頂で

疾患制御に向けて

これまでの研究成果を社会に役立てるために、２０１８年に大学発スタートアップTNAX Biopharma 株式会社を創業しました。発見した免疫受容体を標的とした抗体医薬を開発する会社です。名称は Tsukuba Nobel Antibodies Express に由来します。第２のキャリアをスタートしたDNAX にも重なり気に入っています。当時の仲間たちが、笑ってくれるのもうれしく思います。２０１９年には、筑波大学国際産学連携本部に革新的創薬開発研究センターを設置しました。製薬企業との共同研究を推進することを目的としています。これで、基礎研究（大学研究室）からその成果を創薬に向けて育てる産学共同研究（革新的創薬開発研究センター）、さらに創薬開発研究（TNAX Biopharma）へと連結させる体制を築くことができました。

現在、DNAM-1 に対する抗体医薬の開発を進めており、２０２５年春からヒトを対象とした臨床試験（Ｐ１）を米国で開始できるところまできました。これは始めに難病である潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対する治療薬となる予定ですが、その他の炎症性疾患や臓器線維症など、より多くの難病の患者さんに役に立てることができるのではないかと期待しています。

また、CD300a に対する抗体医薬の開発も進めているところです。これは脳梗塞を対象としています。脳梗塞の患者数は毎年、国内でおよそ30万人、死亡者数はおよそ６万人であり、その医療費は年間１兆４５２億円に昇ります。世界では毎年７８０万人の膨大な人が発症すると報告されています。生存者であっても、その後遺症である神経障害による肉体的、精神的、社会的な質（QOL）は著しく低下します。医学的、経済的、社会的なあらゆる面で、脳梗塞に対する革新的な治療法の開発が求められているところです。この抗体医薬によって寝たきりのない健康長寿社会の実現に少しでも貢献できればと考えています。

おわりに

臨床医を辞めて基礎研究者としてDNAX研究所で研究を開始してから30年を超える歳月が経ちました。やっと、その最初の研究成果が、当初の目標通り、患者さんの役に立つ日が近づいてきています。これまで、多くの方々に出会い、その場、その場でご指導、ご支援を頂いてきました。これらの出会いはいずれも私にとって、かけがえのないものとなっています。この場を借りて、深甚の謝意を表したいと思います。また、私の研究室で共に研究をしてきたスタッフや大学院生は、計２００名を超えました。これまでの研究成果は、偏に若い彼らの努力によるものであることを記し、感謝したいと思います。そして、幼子を連れて共にアメリカに渡った妻は、同じようにDNAX 分子細胞生物学研究所で免疫学研究を行い、帰国後から現在まで同じ研究室でともに研究をしてきた共同研究者でもありました。今回頂戴した野口英世記念医学賞の栄誉は、妻と二人で分け合いたいと思います。二人で研究成果が本当に難病の患者さんの助けになるところを是非、見届けたいと願っています。

野口英世記念館で家族とともに

野口英世記念奨学生

野口英世記念奨学生制度は、有為な人材を育成し、良き社会人として世に送る目的で、高等学校に在学する間の学資金の給付を行う制度です。令和7年度の第67期奨学生は、奨学生選考委員会の推薦を受け、10名に決まりました。新しい奨学生が、それぞれのすばらしい夢を綴ってくれました。

「今度は私が」

伊達市立霊山中学校
青木（あおき） 勇斗（ゆうと）

私には大切な人がたくさんいます。家族も、友達も、先生も、趣味を通じて知り合った人達も、みんなこの上ない程温かくて、ずっと私を励ましてくれました。そうした環境で育ったおかげで気づけたことがあるのです。それは、温かい気持ちは数珠つなぎのように伝わること、そして私はこのことを誰かに伝えたいと思っているということです。そうして私は学校の先生方の影響を受けて、大好きな英語を教える教師を志すようになりました。

高校では、部活動や行事などに打ち込んで楽しく生活しながらも、自分の夢を実現させるために英語と大学受験に向けての勉強を一生懸命に取り組んでいきたいと思います。

新しい出会いを経て、胸が高鳴る新生活が始まりますが、周りに支えてくれる人がいる私は大変幸せです。ですから今度は私が、持ち前の笑顔でみんなの心を温かくします。

「将来の夢」

いわき市立泉中学校
伊東（いとう） 陽太（ようた）

私は、機械の設計に関わる職に就きたいという夢を持っています。私の父が同じような仕事をしており、彼の仕事に対する姿勢がとても印象的だったことや、努力をして一つのものを作り上げるということが自分の性格に合致しているように感じたのをきっかけにこの職業を目指すようになりました。

そのため、私は高校に入学したら、設計にはどのような分野があり、そこに辿り着くには何を学べばよいのかを具体的に調べてその目標に向かって努力するつもりです。また、同じ高校に入った人達と積極的に交流し、勉強以外のことも大切にしていきたいです。

これらの目標を持ちながら、私は日々の生活のあらゆる場面で一生懸命努力し続け、今までの自分を越えるにはどうすればよいのかをしっかり考えて、夢を叶えるために頑張るつもりです。

「夢に向かって」

須賀川市立第三中学校
梅宮（うめみや） 武琉（たける）

僕の将来の夢は数学の教師になることです。きっかけは中学校の数学の先生の授業です。教科書の問題をただ解いていくのではなく、みんなで意見を交わしヒントを得ながら一つの答えを導いていきます。その中で僕は数学を学ぶことの楽しさや、友達や先生と議論し共有し合うことの大切さを学びました。

僕も、将来生徒達に学ぶことを好きになってもらえるよう一人一人に寄り添える教師になりたいです。数学は学年が上がるにつれ難易度もあがり苦手に感じる人も多い教科です。だからこそ問題が解けた時の達成感や喜びを伝えていきたいです。

そのためにも高校では基礎的な力を身につけ一生懸命勉学に励みたいです。そして三年間何事にも全力で取り組み夢に向かって努力し続けていきたいと思います。

「夢の実現のために」

会津美里町立新鶴中学校
遠藤（えんどう） にこ

私には夢があります。それは服飾の販売を通してたくさんの人を笑顔にするという夢です。ずっと憧れていたブランドの店舗に初めて足を運んだ際に、雰囲気に圧倒されていた私に優しく声をかけてくださった店員さんがいました。洋服のお話だったり気さくに話してくださり今でも思い出になっています。私もそんな風に自分の好きな洋服を着て販売を通し、人を笑顔にしたいと思います。

その夢に少しでも近づくために、若松商業高校で専門的な知識を身に付けたいと思います。また、店舗を経営するための様々な資格を取得することのできる高校でもあるので、意欲的に試験に挑戦し、取得を目指していきたいです。

高校生活を通していろいろな人と出会い、たくさんの考えを知り、自分自身の世界を広げていきたいと考えています。

「自分の期待に応えます。」

南会津町立田島中学校
金井（かない） 音也（おとや）

僕は、将来、漫画家として働くために、美術分野に力を入れている高校で絵の経験を積み、必要な知識を学び、成長することを目標としています。高校三年間で、魅力的な漫画を描くための技術、感性を磨きたいです。可能な限り早く漫画家としてデビューをして、家族や周りの人達の期待や応援に応えたいです。また高校では、「美術部に所属し、自分が集中して作品を作る環境を整え、似たような目標を持つ人達と共に成長していくこと」「安定した成績を保つこと」に力を入れて生活していきます。

中学校の約三年間、様々なことに挑戦した分、自分が高めたい美術の技能の向上に専念できなかったと思っています。高校では「自分が出来ること以上の、意味のある努力が出来た。」と思えるように、妥協せず、悔いのない高校三年間を、創っていきたいと思います。

「将来の夢」

須賀川市立第三中学校
菅野（かんの） 稀海（のぞみ）

僕は将来、放射線科医になりたいと考えています。きっかけは、テレビで医療ドラマを見たことです。レントゲン写真などをもとに患者さんを診断していく放射線科医の姿を見て、この仕事に興味をもつようになりました。

放射線科医になるためには、病気を見つけて治療するための豊富な知識と、コミュニケーション能力が必要だと思います。そのため、高校三年間で、目標をもって勉強するのはもちろんのこと、部活動や学校行事に積極的に参加する中で、多くの人と関わり、多くのことを学び、人としても成長していければと考えています。

病気や怪我の原因をしっかりと追求し、的確な判断をもとに治療する医者を目指したいです。そして、奨学生に選んでいただいた恩を忘れず、だれからも信頼してもらえるような立派な放射線科医になりたいと思います。

「将来の夢を実現するために」

いわき市立江名中学校
平（たいら） 純伎（じゅんき）

私は将来、環境に配慮した建設やインフラの整備、災害対策を強化したまちづくりに携わり、災害に強く誰もが暮らしやすい社会を実現したいと考えています。私がこのように考えるようになったきっかけは、東日本大震災が大きく影響しています。それは、震災によって被災した地域での道路や橋の修復、堤防の建設などといった防災を強化した復興の様子を近くで見てきたからです。この時、私も福島で生活するすべての人達が安心・安全に暮らせる社会づくりに貢献したいと感じました。そのため、この実現に必要となる資格や専門的な知識・技術を体得したいと考え、目標としている福島高専に入学し、日々の努力を継続することに加え、まちづくりの理解をより一層深めるためにインフラマネジメントテクノロジーコンテストにも出場したいと考えています。

「将来の夢」

猪苗代町立猪苗代中学校
髙橋（たかはし） 留愛（るあ）

私は、将来薬剤師や放射線技師、医療事務などの医療系の仕事に就きたいと思っています。それは、あるテレビドラマで、医療関係者が病気と闘っている患者さんに寄り添い、励ましている姿に感動したのがきっかけです。その後、医療系の仕事にはどのようなものがあり、どのような仕事内容かを調べたり、家族と相談したりして、自分も誰かのために役立つ仕事がしたいと思うようになりました。

将来の夢を叶えるためには、しっかり勉強に励むこと、人と温かいコミュニケーションをとれる人になることが必要だと思います。

資格取得のための難しい勉強でも決して諦めず、自分の可能性を信じ、一歩ずつ前進していきたいと思います。私の祖父が今、病気と闘っています。将来ではなく今から、自分にできることを考え、少しでも祖父や家族の力になりたいと思っています。

「私の将来の夢と高校生活への抱負」

福島市立信夫中学校
野村（のむら） 仁美（ひとみ）

私の将来の夢は、人の役に立つ仕事に就くことです。私は医療の分野に興味があり、放射線技師として福島の医療に貢献したいと思っています。理由は、身近な人が病院で検査を受け、そこで放射線技師という職業を知り、興味をもったからです。私も、病で苦しんでいる人を一人でも多く救えるようになりたいと思いました。そのために、大学進学や公務員試験に必要な教科をしっかりと学ぶことができる高校に進学し、勉学に励んでいきたいです。また、医療はチームワークが大切と聞いたので、高校のクラスメイトや部員の皆さんなどと良好な人間関係を築くことにも努めていきたいと思います。

今回、奨学生に選んでいただき、ありがとうございます。いただいた支援で教科書を購入するなど、学習環境を整えて今よりも一層精進していきたいです。

「自分の夢を叶えるために」

南会津町立田島中学校
吉田（よしだ） ななみ

私は、将来研究者になりたいと考えています。現在では、環境問題に対する研究に取り組みたいと思っています。そのためには、生物学や化学などを専門的に学び、様々な人と意見の交流をすることが大切だと考えています。これらを実現させるために、私は高校に進学し、中学校では学ばなかった新しい事柄に、今まで以上に興味をもち、新しい視点で物事を見ることができるようになりたいです。

高校では、新しく学ぶことだけでなく、新しい出会いもあります。様々な人と出会い、会話をすることで新しい考えや自分が思いつかないであろう意見に出会えると思うとすごく楽しみです。これらの私の夢を一つ一つ現実にしていくために、これから始まる高校生活を充実させながら、勉強に取り組んでいきたいと思います。

野口英世記念奨学生へのメッセージ

令和3年に中学校を卒業後、高校三年間奨学金制度を利用しながら学業に励み、自身の目標としていた東京大学進学が実現したお礼のご連絡をいただきました。今回先輩から後輩へのメッセージとして寄稿をしていただきましたのでご紹介します。

支えられて

第63期奨学生　石原　玲さん

一度顔を上げてみてください。今みなさんはどこにいて、周りには何が見えるでしょうか?家にいる。学校にいる。電車にいる。カフェにいる。テレビがある。建物がある。机があって、ペンがある。家族が夕飯を作っている。みなさんは今、いつも通りの日常で、いつも通りの光景を見ていると思います。「身の回りにある当たり前に、日々感謝して過ごしましょう」家族や先生に言われたことがある人も多いと思います。私たちは、それは時に目には見えないけれど、常に周りに支えられながら生きています。私もこれまで両親や先生方、友人など多くの方々に支えられ、助けられてきました。

野口英世記念奨学金もその一つです。私はこの奨学金を学校で配られたパンフレットで知りました。私は当時県内の私立中高一貫校に通わせてもらっていたのですが、学費の面などで少しでも母の負担を減らしたいという思いから応募し、第63期奨学生として採用していただきました。この度は改めて、私の進路実現を支えてくださりありがとうございました。

今振り返ると、どこよりも密度の高い中学・高校生活であったなと感じています。私の通っていた中高一貫校は難関大学への進学に特化した学校であり、日々の生活も他とはかなり毛色が異なっていました。朝8時から19時30分までの授業や学習。文化祭や体育祭には参加せず、休み時間やお昼の時間もペンを止めない。年に2回の学習合宿と、無いに等しい夏・冬休み。こうした他から見たら「ハードな」学校生活を送っていました。友人と一言も話せない日も多く、積み重なる課題の量や先生方からの叱責に心が折れそうになったことが何度もありました。

でも私はその環境に感謝していました。自分がどれほど恵まれた環境にいたのかを、当時も今も実感しています。先に述べたような生活は、自分だけでなくクラスメイト全員が送っていました。クラスメイト全員が難関大学を志していました。大学合格という共通の目標のもとで過酷な生活を共にするからこそ、言葉には出せずとも私たちには通じ合っている思い、絆がありました。互いに切磋琢磨し、支え合った彼らは私にとって「仲間」です。

また、どんな日でも学校には先生方がいました。夏休みもお正月も返上して朝から晩までつきっきり

で指導してくださいました。私はもともと医療従事者になろうと考えていたのですが、授業内で教養を学ぶうちに他の幅広い分野にも興味が湧くようになりました。私のためにたくさん考え、走り回り、私の背中を支え押してくださった先生方には感謝でいっぱいです。

そして私を誰よりも近くで支えてくれたのが母です。母が毎日欠かさず作ってくれたおにぎりで、私は毎日頑張れました。先生や課題、進路やスケジュールのことで毎晩マシンガンのように愚痴や悩みを話す私を母はいつも受け止めてくれました。時にひどく疲弊させ、時に激しくぶつかることもありましたが、それでも母はそばにいてくれました。大学生になった今でも、何もわからない私は母に至る所で助けてもらっています。

このように周りからの多くの支えがあって今の私があるのですが、後悔もあります。それはこれまで支えてくださった方々に感謝の気持ちを十分に伝えられていないことです。特に母に対しては、今も支えてもらってばかりで一向にありがとうを伝えられていないと感じています。そのため私の目標は、これからは自分が周りを支える側の存在になることです。

現在私は東京大学という場で多くを学び、刺激を受けています。日々新しい知見や価値観との出会いの連続です。私の大学は一、二年生の間は学生全員が教養学部に所属し学部横断的な授業を受け、その後進学する学部を決めることができるため、現在幅広い学問分野に興味がある私にはぴったりな環境です。ここでの生活で、自分がどのような形で社会や人々に貢献できるかを考えていこうと思っています。

最後にここまで読んでくださった学生のみなさん。私から二つのメッセージがあります。まず一つ目。現時点で将来やりたいことが決まっている人もそうで無い人も、自分に従い、興味があることを自分から学びに行ってください。周りの人がどう言おうが関係ないです。自分を貫いてください。そして二つ目。今自分を支えてくれていると思う存在に対して、どんな形であれ「ありがとう」を伝えてください。

みなさんが自分の夢を実現できることを心から応援しています。

第30回野口英世博士顕彰記念少年科学賞

野口英世博士生誕の地、猪苗代町の小中学校から作品を募集する野口英世博士顕彰記念少年科学賞は第30回を数えました。今回は小学校73点、中学校1点、計74点の研究作品の応募がありました。熱意をもって研究に取り組んだ作品が多くみられました。令和6年11月9日野口英世至誠館において授賞式が執り行われました。

本年度の入賞作品は左記のとおりです。おめでとうございます。

最優秀賞	海水をエネルギーにしたい	猪苗代第二小学校	6年	鈴木　創介
優秀賞	にわでもすいかはなるのかな	猪苗代第二小学校	1年	佐藤　菜月
	なぜ？手はふやけるの？	猪苗代小学校	2年	鈴木　美優
	べっこうあめをじょうずにつくるには？	猪苗代第二小学校	3年	浅川　結梨
	車で目玉焼きは焼けるのか？	猪苗代第二小学校	4年	宗像　朔矢
	身近にあるセミのぬけがら調べ　パート3	猪苗代第二小学校	3年	坂本　隆仁
		猪苗代第二小学校	5年	坂本　陸仁
佳作	かぶとむしのゼリーのたべかたをしりたい	猪苗代第二小学校	1年	ライアン勇史
	高さとばしょのちがいで気おんはどうかわるか	猪苗代第二小学校	2年	齋藤　穂
	ふわふわパンケーキとレモンの力	猪苗代第二小学校	3年	加藤　悠花
	１０円玉のよごれ　どれが1番おちるかな	猪苗代第二小学校	3年	土屋　夏音
	身の回りの山菜図かん 調べて採って食べてみたパート2	猪苗代第二小学校	4年	齋藤　義明
	われないシャボン玉は何で作れるか！	猪苗代第二小学校	5年	佐藤　駈琉
	再生可能エネルギーについて調べる	猪苗代小学校	6年	渡部　正和
	日本犬（和犬）を知る	猪苗代中学校	1年	遠藤　優奈

猪苗代第二小学校　６年　鈴木 創介さん

少年科学賞入賞のみなさん、おめでとうございます

令和６年度「野口英世記念会賞」

福島県教育委員会が主催する中学生・高校生の優れた科学・技術研究論文を称える「野口英世賞」、国際理解に関する優秀な論文を称える「朝河貫一賞」の最優秀作品に「野口英世記念会賞」を授与しています。

令和６年12月26日に行われた合同表彰式で当会倉根一郎理事長より表彰状や記念品が贈られました。

受賞されたみなさまおめでとうございます。

野口英世記念会賞

●**最優秀賞　野口英世賞　高等学校の部　共同研究の部**

「めざせ！カンゾウ（甘草）の国内自給 ～挿し穂の水耕発根実験
グリチルリチン酸含量分析、及び適環境条件の推定～」

福島県立安積高等学校生物部

伊藤　健太　阿部　航太　砂子田陽大
舟木　愛莉　佐藤　翠柚　石塚　明莉
伊原　莉音　藤澤　樹　吉野智彩季

●**最優秀賞　朝河貫一賞　中学校の部**

「亡き祖母から学んだ「多文化共生」」

二本松市立小浜中学校　3年　湊　砂奈

●**最優秀賞　朝河貫一賞　高等学校の部**

「はじめの一歩」

福島県立原町高等学校　2年　荒　蒼依

野口英世記念会賞受賞のみなさん

令和６年度　野口英世記念 高等学校自然科学系部活動助成事業

公益財団法人野口英世記念会では、野口英世が生涯をかけて世界の人々のために科学の研究に取り組んだことから、科学への興味関心を高め、未来を担う人材育成を図る目的として、部活動（研究活動）の充実のために、福島県の高校生の自然科学系部活動の助成事業を行うことといたしました。

高校生みなさんの活発な研究活動を期待いたします。

令和６年度の助成対象校は左記の通りです。

●**福島県立磐城高等学校　自然科学部**
●**福島県立磐城桜が丘高等学校　科学部**
●**福島県立萌世高等学校　理科部**

野口英世博士顕彰記念事業

野口英世生誕の地である猪苗代町では、町内の小・中学校の児童生徒が「二十一世紀の国際社会において野口英世に続く日本人」になることを期待し、スポーツや文化事業を通じ、野口英世の精神である「忍耐・努力」を培うことを目的にした種々の顕彰記念事業を行っています。

今年度より猪苗代町内の小学校の統合があり、これまで行われていた音楽祭が芸術鑑賞祭として実施することになり、体育祭・スキー大会は小学校2校での顕彰記念事業となりました。スキー大会は大雪のためクロスカントリースキーの部が中止となりました。

体育祭　2024 年 9 月 25 日

体育祭　2024 年 9 月 25 日

小学校スキー大会（アルペンの部）　2025 年 1 月 21 日

第63回野口英世博士顕彰記念作文コンクール

猪苗代町内の小中学校から作品を募集する「野口英世博士顕彰記念猪苗代町小中学校児童・生徒作文コンクール・野口英世博士に関する作文」の授賞式が、11月9日誕生祭の式典後に挙行されました。

特選を受賞された猪苗代小学校4年鵜川聖姫愛さんと猪苗代中学校2年野口大和さんが受賞作文を朗読しました。

特選

猪苗代町の英ゆう、野口英世博士

猪苗代小学校 4年　鵜川　聖姫愛

わたしが初めて目にした千円札は、野口英世博士のお札です。日本のお札になるくらい、い大な野口英世博士と同じ猪苗代に生まれ育った事は、わたしにとってとてもほこりです。

ただ、少しずつそのお札もなくなっていってしまいます。なぜかというと、この猪苗代町出身の野口英世博士が日本の「顔」として二十年間も愛されてきましたが、とうとう今年の七月三日に、新しいお札が発行になったからです。

千円札の「顔」は野口英世から北里柴三郎にバトンタッチとなりました。同じ猪苗代町出身として、野口英世博士をずっと身近に感じてきたわたしは、正直さびしい気持ちになりました。わたしにとって、お札が変わるということは初めてのけいけんです。

お買い物をする時やお年玉をもらう時は、ずっと猪苗代のい大な人と言ったら、やはり野口英世博士。

野口英世博士に関する作文

〈小学校の部・4年生〉

特選
猪苗代町の英ゆう、野口英世博士　猪苗代小　鵜川聖姫愛

金賞
野口英世の言葉から気付いたこと　猪苗代二小　諏訪奏太郎

銀賞
あきらめない心　猪苗代小　松本凛太郎
あきらめないことの大切さ　猪苗代二小　古川　彩乃

〈中学校の部・2年生〉

特選
バトンタッチ　猪苗代中　野口　大和

金賞
努力は無限　猪苗代中　村澤　寿々

銀賞
野口博士の遺訓を胸に　猪苗代中　橋本　沙樹

野口英世博士のお札でした。なれ親しんだお札が少しずつ日本中からへっていき、使われなくなるのはさびしいです。

そんな、い大な野口英世博士について、この夏休み、あらためて調べてみました。

野口英世博士は、まずしい家で生まれました。そして、生後二ヵ月で左手に大やけどを負いました。わたしは、それを知って悲しい気持ちや、かわいそうな気持ちになりました。わたしは、元気なじょうたいで生まれ、大きなケガや病気もせず、今まですごしてきました。そのことが、きせきだと思いました。

それから、手の手じゅつをきっかけに、医学への道へ進み、世界へ飛び立ち様々な成果をのこした事をあらためて知って、とてもすごいことだと思いました。わたしも、野口英世博士のように、どんなこんなんにも立ち向い乗りこえられるせい神をもちたいです。

また、野口英世博士の口ぐせは、「にんたいは苦し、されどその実はあまし」だったと知りました。まだ、十才のわたしには、その言葉の意味や重さを理かいすることはむずかしいですが、いつか、この言葉の意味を理かいできる日がくるよう、日々のど力をわすれないようにすごしていきたいです。

さい後にもう一つ、初めて知ったことがあります。野口英世博士が左手の手じゅつを受けた病院が、会津若松市にあるということです。病院の名前は、「会陽医院」というそうです。げんざいは、「野口英世青春館」として、一階がきっさ店、二階はしりょう館として活用されているそうです。わたしも会津若松市に行ったら、一度は「野口英世青春館」に行ってみたいと思いました。

わたしは、みんなの命を助ける研究をしてなくなった野口英世博士のことを、とてもそんけいしています。

わたしも、いつかだれかを助けられるような大人になりたいです。

特選

バトンタッチ

猪苗代中学校 2年　野口　大和

今年の夏、僕はある衝撃を受けた。姉のチアリーディングの全国大会の応援のため、東京に行った僕は、買い物をした際に五千円札を出した。おつりをもらって財布に入れる。そんな当たり前の行動をしたそのとき、大きな違和感を覚えた。

財布の中身を見て、ハッとした。普段、当たり前にいるはずだった野口英世博士の姿が見当たらないのだ。僕の財布から博士が消えてしまった。代わりにいたのは、新しい千円札の顔「北里柴三郎博士」であった。僕は違和感と同時に、寂しさも覚えた。

姉のチアリーディングの大会には、神奈川に住む母方の叔母といとこも駆けつけてくれた。一緒に応援をした後、僕はお小遣いをいただいた。二つの袋にそれぞれ千円札が五枚ずつ。そしてあるクイズが出題された。「旧札と新札に描かれた二人の人物の関係は？」というものだった。僕にはその答えが全く分からなかった。そこでこの夏、クイズの答えを自分で見つけることにした。小さい頃から見慣れているお札の顔…それが変わったことで感じた違和感…そこに隠された意味を、僕はきちんと知っておきたかった。猪苗代に生まれ育ち、学校で野口英世博士についてたくさん学んできたが、それでも知らないことがたくさんある。僕はクイズの答えを見つけるため、野口英世記念館へ向った。事前にホームページを見てみると、「野口英世と恩師北里柴三郎の絆」という企画展が開催されているではないか。これはチャンスだ。

企画展はたくさんのお客さんで賑わっていた。まず目にとびこんできたのは、北里博士が所長を務める伝染病研究所への入所を、英世博士が望んだというパネルだった。帝国大学を出ていない英世博士の入所は困難を極めたようだが、様々な出会いや周囲の人々の助けによって、ようやく入所できた。しかし入所後も、なかなか本格的な研究をさせてもらえなかったという。図書係を命じられ、研究とはかけ離れた仕事をさせられても「博士になるための腕試し」と思い、懸命に励んだ姿に感心した。その研究所での働きが認められ、渡米するための紹介状を書いてくださったのが、北里博士だったようだ。それからも英世博士は、恩師である北里氏への感謝を常に心に留めながら世界で活躍したと書いてあった。英世博士が帰国した際の歓迎会の司会や、葬儀の際の弔辞も恩師である北里博士が務めている。英世博士の活躍の歴史には、北里博士との深い関わりがあることが分かった。

英世博士自身の生涯に関することは、小学生の頃から学習してきたが、博士を取り巻く人間関係に関しては無知だったので、この夏は新たな発見がたくさんあった。北里博士と英世博士は同じ細菌学者として、何を目指していたのだろうか。大きな目的は、二人とも同じ。「人類の命を守ること」だったのではないか。大切な人、家族、友人、恩師…そしてその先にいる全ての人を、細菌や病気から守るために尽力されたのであろう。僕は二人の関係性に、企画展の名称の通り、「絆」を感じた。そして大きな夢のために自分の命さえ捧げた英世博士の偉大さを改めて感じた。僕には到底できないことだ。猪苗代からそのような偉大な博士が輩出され、偉大な方々と繋がり、偉大な功績が生まれたことを考えると、あまりのスケールの大きさに驚嘆した。また、英世博士と同じ猪苗代町に生まれたことを誇らずにはいられなかった。英世博士と北里博士が、日本の顔として紙幣になるのも頷ける。

叔母やいとこが出したクイズの答えは「恩師と弟子」であったが、僕はもう一つの答えを見つけた。「人生の中での出会いが、自分の運命を変えることもある」ということだ。僕が今まで歩んできた人生の中で、数多くの人との関わりがあった。そしてこれから歩んでいく人生の中にも、たくさんの出会いがあるだろう。その出会いや繋がりのなかで得られるものは、何物にも代え難い、僕の大きな財産になるはずだ。

野口英世博士は少しずつ僕たちの財布の中から姿を消していくだろう。しかし、恩師にその役目をバトンタッチしても、英世博士の偉大さは後世に伝えられ、僕たちの心にずっと残るはずだ。

僕はこの夏の記念に、一枚だけ博士の紙幣を取っておこうと思う。この気持ちをずっと忘れないために…。

作文コンクール入賞のみなさん　おめでとうございます

野口英世記念館の動向

野口英世記念奨学生奨学生証贈呈式

令和6年4月14日

令和6年度第66期奨学生10名に対する奨学生証贈呈式が2024年4月14日、野口英世感染症ミュージアム研修室において執り行われました。

当会倉根理事長は、将来仕事につく際には世界とかかわりがない仕事というものは存在しないので、世界を視野に入れた考え方をし、次の世代を担う気概をもって高校生活の三年間、一生懸命勉強し、見聞を広めてほしいと新奨学生を激励するとともに、奨学生証書・記念品を一人づつに贈りました。

新奨学生たちは、気持ちを新たに奨学生証書を受け取り、自己紹介を兼ねて今後の高校生活や将来への抱負を述べました。

第66期奨学生の抱負は、野口英世記念会報第69号にて紹介しています。

奨学生のみなさんには、野口英世記念奨学生としての誇りを持ち、夢の実現に向けて頑張ってくれることを願っています。

奨学生証書を手にする第66期奨学生のみなさん

第95回野口英世博士命日祭

令和6年5月21日

野口英世の命日にあたる5月21日に第95回野口英世博士命日祭が執り行われました。

当日はあいにくの空模様のため、野口英世生家の座敷において床の間に位牌と祭壇を準備し室内での開催となりました。

命日祭には猪苗代町町長や教育長、遺族代表の二瓶昭氏、当会役員らが参列し野口英世博士の冥福を祈りました。

当日は野口家の菩提寺である長照寺の楠恭信住職の読経の後、参列者が焼香を行いました。

本年度が第95回の命日祭にあたり、今後2026年には野口博士生誕150年、5年後の2028年には野口博士没後100年の大きな節目の年が続きます。記念会として今後の記念すべき年に向け準備を進めて参りたいと思います。

読経をする楠恭信住職

感染症ミュージアム シアタールーム新設

令和6年8月1日

野口英世記念感染症ミュージアムの新たなスポットとして展示室2階にシアタールームを開設いたしました。これまで研修室として使用していた部屋を改修し、2本の映像を繰り返し上映しています。

映像は感染症の原因について紹介する「細菌とウイルス　その違いは何か?」（7分）と、野口英世の業績を紹介する「黄熱病との闘い　細菌学者野口英世」（14分）の2本で、今後、感染症の研究の歴史を紹介する映像なども制作し、大人から子どもまで野口英世や感染症についてわかりやすく紹介していくことにしています。

新設されたシアタールーム

救世観音祭礼

令和6年8月9日

記念館中庭に祀られている観音堂の救世観音（一葉観音）の祭礼が8月9日に執り行われました。

野口家菩提寺の長照寺・楠恭信住職の読経の後、三城潟御詠歌護持親睦会のみなさんにより、中田観音の御詠歌と一葉観音の御詠歌が詠じられ、やけどを負わせてしまったことを後悔する母シカの心を慰めるよう観音様に御詠歌を届けました。

一葉観音御詠歌

ははとこと　ひとつみふねに　さおさして
よろずよまでも　よをすくうらん

御詠歌を詠じる三城潟御詠歌護持親睦会のみなさん

野口英世記念館で博物館実習

令和6年9月2日～13日

博物館学芸員の資格取得を目指す大学生による博物館実習が行われました。

本年は都留文科大学教養学部地域社会学科の佐藤雄飛さんが、延べ10日間の期間で資料の取り扱いや展示方法などの学芸分野の実習や、受付業務、ミュージアムショップの運営などに関わる実習を行い、当館の博物館活動の一端を実際に経験し学びました。

当館頒布品の忍耐Tシャツを着用し実習に臨んだ佐藤さんは、館の業務に興味関心を強くもち、ミュージアムショップの展示物や2024年度企画展での年表パネルなどを制作し、それらは現在館内で活用されています。

今回の博物館実習を通して、博物館学芸員の資格取得とともに、今後の社会人としての活動に役立てていただければと思います。

展示作業をする実習生

第１４８回野口英世博士誕生祭

令和６年11月９日

野口英世の誕生日である11月９日に誕生祭が執り行われました。

猪苗代町長をはじめ地域の代表者や、誕生祭の後に行われる野口英世作文コンクール・少年科学賞の入賞者、当会役員らが参列しました。

野口家菩提寺の楠恭信住職の読経の後、参列者が献花を捧げました。

記念会を代表し倉根一郎理事長が挨拶を行い、参列に対する御礼と、野口英世が海外に渡って現地で感染症研究を行った意義について述べました。

誕生祭の様子

駐ガーナ日本国特命全権大使 義本博司氏来館

令和６年11月18日

12月にガーナに着任される義本博司大使が赴任に先立ち野口英世記念館に来館されました。

２０２８年は野口英世がガーナで殉職してから１００年となります。今後もガーナ共和国と交流を深め没後１００年にむけ準備を進めたいと思います。

義本大使と八子館長

野口英世生家で年中行事

令和７年１月10日　団子さし
令和７年２月３日　節分豆まき

猪苗代第二小学校の１学年と２学年の児童が生家で年中行事を体験しました。

団子さしを行った１年生は、一所懸命背伸びをしながらミズキの枝に赤白黄緑の団子や縁起物を飾り、五穀豊穣を祈りました。

節分豆まきでは、鬼にむかって豆を投げる２年生の元気いっぱいの声が生家に響き渡り、野口英世記念館にもたくさんの福が招かれました。

元気に鬼退治をした２年生

きれいに飾り付けてくれた１年生

各地で行われたイベント

各地の展覧会で紹介された野口英世

本年は新千円札が発行されたこともあり各地の展覧会で野口英世が紹介されました。

6月1日より7月7日まで福井県教育総合研究所教育博物館で開催された「特集展示　お札になった人々」では、当館が提供したカラー写真の画像とともに教科書に書かれた野口英世の記述や渡部鼎先生に送った書簡などが展示されました。

福井県教育博物館での展示の様子

7月3日より10月31日まで北里柴三郎記念博物館で開催された「北里柴三郎が語るお札の話」では野口が北里博士に送った書簡や書籍・論文が紹介され、北里博士と野口の出会いから世界へと送り出したふたりのかかわりが紹介されました。

同館では新札発行に合わせグランドオープンも行なわれ北里門下の研究者の活躍が紹介されています。

山中湖文学の森三島由紀夫文学館・徳富蘇峰館では7月13日～11月10日まで世界的に活躍し野口とも交流のあったプリマドンナ三浦環の生誕140周年、旧中野村疎開80周年を記念し「三浦環をめぐる人たちI」が開催され、ニューヨークで撮影された三浦環と写る野口英世の写真が紹介されました。

長野県佐久市川村吾蔵記念館では、10月12日より11月10日まで生誕140周年記念「20世紀アメリカに生きた彫刻家　川村吾蔵展」が開催され、川村吾蔵作「野口英世胸像」や川村吾蔵の活躍が紹介されました。またこれに先立ち8月17日より25日まで、川村吾蔵がマッカーサー元帥の胸像も制作している縁で、東京都千代田区の第一生命ギャラリー（第一生命本社ビルは戦後GHQに接収され執務室をおいていた）を会場に同展覧会が開催されました。

このほかにも新札発行に伴い日本銀行貨幣博物館や独立行政法人造幣局造幣博物館などお金に関する博物館でも野口が紹介されました。

野口清作上京の地　本宮駅に野口胸像建立

令和6年11月25日

野口清作が1896年に上京する際に利用した本宮駅に新たに野口英世の胸像が設置されました。

本宮駅周辺整備事業の完了を記念し、本宮駅東口の新たなシンボルとして野口英世の胸像と案内看板が設置されました。

当会からも画像や情報提供を行い胸像制作に協力し、11月25日に執り行われた除幕式には八子弥寿男記念館館長も出席し建立を祝いました。

本宮駅に建立された野口英世像

特集

おつかれさま、野口英世
～20年間を振り返って～

2019年に新札の発行が発表され、5年後の2024年7月3日に新千円札が発行されました。これまで20年間お札の顔として活躍してきた野口英世千円札の歴史をご紹介します。

野口英世千円札２号券

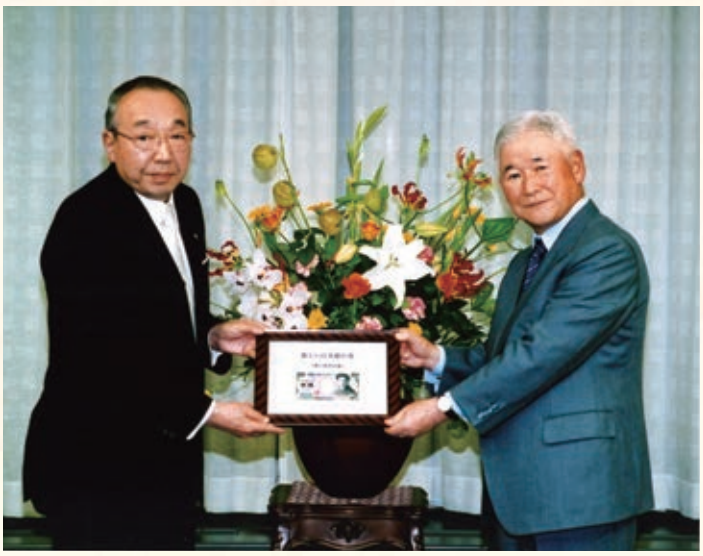
野口英世 千円札採用の経緯

２００２年（平成14）８月２日、塩川正十郎財務大臣より新千円札の肖像に野口英世を採用することが発表され、野口英世は科学者として初めてお札の顔になり、新聞各紙一面トップに掲載されるなど各メディアでも大きく取り上げられました。

新千円札採用にあたり、従来は主に政治家に片寄りすぎていたため、広い視点から学術や明治近代化の先駆けとなった人物などを選ぼうとし、財務省が新札を選ぶにあたって設けた基準は政治家ではなく文化人であること、小学校・中学校の教科書に写真が載っていて親しみやすいこと、顔に特徴があって偽造しにくいこと、宗教性が薄いことなどでした。この観点から野口英世が採用されました。

2号券贈呈式

２００４年（平成16）11月2日、日本銀行本店にて当会の高添一郎元会長が福井俊彦日本銀行総裁より新千円札「A000002A」の贈呈を受けました。同千円札は野口英世記念館に展示され今もなお多くの来館者にご覧いただいております。



新千円札二番券の贈呈式
高添会長と福井日銀総裁

千円札に採用された反響・記念館の来館者数

２００４年（平成16）11月1日に野口英世の千円札が発行され、猪苗代町内では各金融機関で開店と同時に新札への両替のため行列ができるなど祝賀ムード一色に包まれました。

新千円札発行記念式典

新千円札発行を記念して提灯行列や新千円札発行記念祝賀会が執り行われ、かつて野口英世が帰郷の際、翁島駅前に歓迎大アーチを立てたことにならい、当時の三分の一ほどの大きさの杉の葉で作られた歓迎アーチが猪苗代町役場玄関前に設置されました。

野口英世記念館では新千円札が発表になった２００２年から徐々に来館者数が増え千円札発行となった２００４年の来館者数は約48万人で、発表前に比べると7万人を超えるほど増加しました。

新札発行に伴い、入館料の釣銭を野口英世新千円札でお返ししましたが、瞬く間に準備した千円札がなくなるほどの人気ぶりでした。

新札発行前後には各所で講演会や館外展示会の依頼が殺到し国民の関心の高さが伺えました。

また県内では新千円札に野口英世が採用されることを記念して野口英世や猪苗代にちなんだお菓子やビール、文房具などの商品が数多く開発され商品化されました。記念館では新札発行を記念して早速テレフォンカードをはじめ文房具や書籍、キーホルダー等を作成し、来館記念として多くの人々から喜ばれました。

新千円札の顔発表

２０１９年（令和元）に野口英世の千円札にかわって新紙幣を発行することが発表され、２０２４年（令和６）７月３日より新千円札が発行されました。

新紙幣の千円札の顔となったのが野口英世の恩師である北里柴三郎です。２代続けて細菌学者が採用され、師弟関係にある細菌学者として世界で活躍した二人による千円札のバトンタッチとなりました。

学校などで行われた出前講演会

師弟二人がお札をバトンタッチ

最終製造番号贈呈式

２０２４年（令和６）７月３日、20年間、千円札の顔として活躍してきた野口英世、日本銀行・独立行政法人国立印刷局より日本銀行券の広報の貢献により最終製造のＥ千円札券の最終製造番号券が贈呈されました。

贈呈式では、当会から倉根一郎理事長、本間稔副理事長が日本銀行本店を訪れ、植田和男日本銀行総裁・大津俊哉独立行政法人国立印刷局長より最終製造券「Ｅ様式千円券記号番号 HM3000000A」の贈呈を受けました。現在野口英世記念館には旧千円札２号券と最終製造番号の二枚が展示されています。

最終製造番号券贈呈式

猪苗代町から感謝状贈呈

２０２４年（令和６）７月４日、野口英世記念館の特別企画展が開催されている「野口英世と恩師北里柴三郎の絆」の特別展示室において猪苗代町から長年にわたり千円札の肖像として、猪苗代町の知名度向上に多大の貢献をしてきた野口英世に感謝状を贈呈するセレモニーが行われました。

多くの取材陣の中、二瓶盛一猪苗代町長から八子弥寿男館長へ感謝状が贈呈されました。町のユーモアを交えた企画に感謝申し上げます。

猪苗代町から野口英世へ感謝状

企画展 野口英世と恩師 北里柴三郎の絆

企画展「野口英世と恩師北里柴三郎の絆」

新千円札の発行を記念して、２０２４年３月２日（水）から翌年３月16日（日）まで、記念館１階展示室において企画展「野口英世と恩師北里柴三郎の絆」を開催いたしました。

このたび千円札の肖像としてその役割を引き継いだふたりは、同じ細菌学者というだけでなく、たいへん関係が深く、野口英世の海外への飛躍の背景には北里柴三郎の力添えがありました。

本企画展では紙幣の肖像が弟子から恩師へバトンタッチするこの機会にふたりのゆかりを紹介いたしました。

野口英世と北里柴三郎の関係は、野口が伝染病研究所に入所から始まります。細菌学研究を志した野口は多くの人の助力と、北里の許しにより入所が許されます。図書係として研究所の仕事に励む野口の英語などの語学力の才能を見出した北里は、アメリカから訪れた病理学者サイモン・フレキスナーの通訳と案内役を英世に命じます。のちにこのわずかな縁を頼り野口はアメリカへと渡り、世界的な活躍へとつながっていきます。

北里が引き合わせたフレキスナー博士と野口

野口が伝染病研究所の図書係として図書の管理を怠り、研究所から解雇される際には、北里は横浜海港検疫所の検疫医官補に転任できるよう斡旋し、野口はそこでの検疫によりペスト患者を見つけ出し、ペストの上陸を水際で防ぐ成果を上げることができました。

北里はこの成果と海外での活動で必要な英語の語学力を買い清国牛荘でのペスト研究の国際予防委員会に派遣する医師の一人に野口を推薦しました。この派遣が野口が初めて海外へ渡る機会となり、その活動の中で自信をつけると同時に、海外で研究を行いたいという思いがさらに強まり、清国から帰国した1900年の年末にアメリカへと渡りました。

はじめての海外渡航で発給された旅券

その後のアメリカでの活躍はみなさんの知る通りです。

1915年、野口の凱旋帰国の際にはマスコミや世間からは熱狂的な歓迎がありましたが、その一方で医学界からは、学閥を離れ、アメリカで自由に研究して成果を上げた野口に冷ややかな目が向けられました。その中でかつての仲間や恩師たちは、英世の活躍と成功を認め歓迎してくれました。東京日本橋倶楽部での歓迎会では野口の横に座り歓迎する北里の姿がありました。

ふたりがともに写る写真　日本橋倶楽部での歓迎会

当時北里は伝染病研究所の文部省移管問題に端を発し、新たに北里研究所を設立したばかりでした。しかしその下には伝染病研究所を辞職し北里についてきた北島多一、志賀潔、秦佐八郎ら多くの研究者がいました。野口もはるか前に伝染病研究所をやめたとはいえ、北里柴三郎への学恩を忘れなかったため、歩み始めたばかりの北里研究所を訪れた際には「僕はいつでも諸君のカモラーデ（仲間）だよ」といって激励し、北里へ恩義をこの言葉に込めました。

このように多くの機会で北里柴三郎が野口英世に力を貸し、世界への扉を開いたことがわかります。

第23回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」

～あなたに伝えたい想いがある～

お手紙を朗読する大賞受賞の早川慶子さん

令和6年12月1日㈰、第23回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」の表彰式が猪苗代町体験交流館「学びいな」において行われました。今年は1313編の想いのつまったお手紙が全国のお母さんたちから寄せられ、大賞、準大賞、日本郵便賞各1編、優秀賞7編、佳作40編の計50編の入賞作品が選ばれました。

表彰式には、全国から入賞者の方が出席され、大賞を受賞した早川慶子さんによる手紙の朗読が行われました。記念館でも大賞など10編のお手紙をご覧いただけます。

大賞　早川 慶子さん（宮城県）

この前、あなたの職場を見学に行ったよ。あなたは作業に夢中で気がつかないのか、お母さんの前を知らぬ顔で通り過ぎ、山積みのペットボトルの前に立つと、慣れた手つきで一個ずつキャップを外しては大きなカゴの中に投げ入れ、カゴがいっぱいになると、先輩と協力してリサイクル場へ運びます。そのスピード。手際のよさ。

自閉症と知的障がいで、何も分からず、困った行動ばかりのあなたが、こんなにもてきぱきと仕事をしているなんて。こんなにも成長していたなんて。夢のようで、信じられなくて。でも、すごく嬉しかったよ。

あの日から、お母さんは、あなたのまっ黒に汚れた作業着を洗濯するのが、苦にならなくなりました。

毎朝、小走りで送迎バスに乗り込み、窓から手を振るあなたへ。今日も元気に行ってらっしゃい。地球を守るあなたのお仕事は、お母さんの誇りです。

大賞受賞者　早川慶子さん

準大賞　　廣瀬加奈さん

表彰式の様子

準大賞　廣瀬 加奈さん（大阪府）

娘の大好物はエビフライ。その下処理をしながらふと思った。手間暇かけた煮込みでも何でも、食べてくれるのはアッという間。この十分程の為に頑張れるのは「美味しかった」の一言と、キレイに残さず食べてくれた瞬間を想うから。言葉少なに食事を終え、エビのしっぽを積み上げた皿を残して威勢よく部屋に戻って行く娘を、少し淋しくも思うけれど。本当はお母ちゃん、もっとお話がしたいよ、思春期くん！

夏休みなど、三食きっちり用意するのは面倒だけど。食事に込めた母の愛情を、いつしか思い出してくれたら良いなと思いつつ自分を励ます。何だか一日中、ご飯作ってるやんと思いながら。

仕事で疲れて帰宅した日の手抜きご飯も、仕込みから気合い入れた休日の食事も、記念日スペシャルメニューも。母の込めたメッセージ、一日の糧から伝わりますように。そんな事を思いながら、今日も台所に立っている。

日本郵便賞　栄 直美さん（愛媛県）

君は言葉の発達が遅く　四才になるまで喋らなかったね。私たちの言葉はちゃんと理解してくれていたのであまり不安は無かったけれど、たまに心無い人から「愛情が足りんのじゃない。」などと言われると母さんはとても落ち込みビービー泣いていました。

そんな母さんを見て父さんは

「あいつは今　言葉を沢山貯めてるんよ。そのうち急に喋りだして『お願いだから少し黙っとって。』って言う日が必ず来る。あいつを信じて待とう。」

って、言ってくれた。その日から母さんは、人それぞれ、人と比べない。と心に誓った。

気が付けば君は家族の中で一番のお喋り君になっていた。

「お願いだから少し黙っていて。」

夢にまで見た言葉を君に言った時、嬉し涙が零れたよ。人と比べない事をモットーにしてきたけど、アインシュタインは五才まで喋らなかったと聞いて期待してしまう母です。

日常の中にある大切なもの

第22回　母から子への手紙コンテスト　大賞受賞者　上島　直美

その時、私は駅のホームのベンチで電車を待っていました。土曜日の午前中は、時々子どもに関わるボランティア活動をしていて、出会った子どもたちに思いを巡らせていました。スマホがブルブルと鳴っていたようで、『福島県』と表示された番号……。急いで取りましたが「プツッ」と切れてしまい、すぐに折り返したところ「おめでとうございます。今、最終選考が終わり、大賞に選ばれました」とのこと。なんだか本当のことかどうか、雲の上にいるような気持ちのまま帰宅。家族に報告したものの、疑い深い夫は「書類が届くまで信じられない」と。そして、子どもたちも「ふ～ん」と冷めた反応。（ああ、さすが。この冷めた感じ。うちの家族らしい反応だ）と笑ってしまいました。数日後、速達で丁寧なお手紙が届き、やっと大賞受賞を実感。じわじわと喜びをかみしめました。

実は、私は野口英世博士と同じ誕生日。そして、私の両親は新婚旅行が東山温泉で、もうこれは「ご縁がある」と、千円札を見ては勝手に思ってきました。そして、猪苗代には、結婚前の20代、結婚してからは子どもたちを連れて、そして東日本大震災の後は福島への応援の気持ちを込めて訪問を続けました。その訪問時に『母から子への手紙コンテスト』のポスターを見かけ「猪苗代でこのポスターを見つけたのも、奇跡の出会いだ。書こう！」と、心に浮かぶ想いを書いた手紙を数回、猪苗代町へ送り、今回大賞をいただくことができました。

大賞受賞された上島直美さん

本当にうれしくて、野口英世博士と同じ誕生日で良かったと、そして、その日に生んでくれた母親にも感謝の思いでいっぱいになりました。

子どもが生まれた日から「お母さん」と呼ばれるようになりました。大きな喜びと同時に「母になるとはどういうことなんだろう……」と不安や戸惑いも感じ、自分のことを「母」と表現するたびに力が入っていました。そして、なんだか分からないまま、待ったなしの子育ての日々。そんな「母」に気付いて、子どもたちはあえて「母の日」を無視してきたのかもしれません。（違うかな）

私には娘と息子がいます。今回の手紙の主人公である娘は、今どきの言い方で表現すると「空気を読むのが苦手な人」。保育所から始まる集団生活では「みんなと同じことをする」ことが求められたため、それが苦手な娘の評価は「大変な子」となり、

上島直美さんと野口博士

日々のダメ出しを聞くたびに、それは「母親に対するマイナス評価」だと私が勝手に思い込み、自分を責め、娘にも「みんなと同じことをする」ことを求めていた時期もありました。「いい子」の基準は「自分にとって都合のいい子」だったと……、そんな私がカーネーションを期待するなんて相当図々しいと恥ずかしくなります。

子育ては喜怒哀楽の気持ちがすべて集まり、その気持ちのぶつけ合いのようで、大笑いをすることもあれば、大げんかになることもあります。「今の発言は、完全に私の八つ当たりだった」と深く反省するような場面でも、子どもたちの大いなる寛容さに救われてきました。そんな悲喜こもごもの毎日の中で「育てていると思ってきたけど、育てられているのは、実は私？」と気付きました。子どもたちとの関わり合いや対話を通じて、様々なことを考え、社会に目を向けるようにもなり、生きがいとなっているボランティア活動にもつながりました。そして「許す心」は子どもたちから教わりました。いくら努力してもうまくいくとは限らず「待つこと」、そして「前向きに諦めること」も学びました。間違いなく私自身が変わり、人として育ててもらいました。子育てって「親と子が双方向で、生涯にわたって育て合うこと」なのだと思い至った時、今まで入っていた力が抜けたような感じがして、私も「このままでいいかな……」という気持ちになりました。

今、我が家には母の日はありません。カーネーションをもらったのはいつだったか思い出せないほど遠い昔です。それにモヤモヤしていた心の狭い私に、小さなころの娘のノートが教えてくれたことは「子どもたちからのプレゼントは、日常の中にある。きれいに包装されているわけでもなく、さりげなく存在しているから、いつもは気付かれない。でも、なぜかふとした拍子に姿を現し、心を温めてくれる」ということでした。振り返れば、もらったプレゼントは数知れず……。娘が学童保育で作ってくれた「お手伝いの国から来たマロンちゃん」は、常に私の仕事場の机の上で、仕事を見守ってくれています。息子が書いた似顔絵はTシャツにプリントして、ぴちぴちになった今でも夏の必須アイテムです。

親愛なる子どもたちへ。「母の日」を長年にわたり無視してくれてありがとう。そのおかげで大賞をいただけました。そして、大好きな玄侑宗久さんから「何があっても大丈夫な人」と言ってもらえましたよ。これからも、苦労や大変も笑いに変えて、お互いに育て合って生きていこうね。

お手伝いの国から来たマロンちゃん

オリジナルＴシャツ

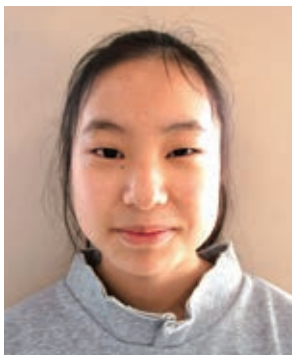
野口博士と記念撮影

出前授業に行きます！
～「野口英世の生涯と業績」～

野口英世記念館では、修学旅行で野口英世記念館の見学を予定している小・中学校へ、あるいは野口英世の生涯と業績を教育活動に生かしていこうとする学校へ出向いて、分かりやすくお話する出前授業を行っています。

令和６年度は、これまでで最高の２４２校の皆さんに出前授業を行いました。いずれの学校でも、児童・生徒の皆さんが熱心に話を聞いてくださいました。

たくさんいただいたお礼の手紙の中から９通、他に品川区立伊藤学園特別支援学級の取組をご紹介します。



宮城県仙台市立幸町南小学校　６年
石垣　奈緒 さん

先日は、出前授業をしていただきありがとうございました。

ていねいに教えてくれたおかげで、野口英世の生き方についてたくさん知ることができました。

私は特に、お母さんが手紙の中で「早く帰って」という言葉を伝えていたということを聞いて、とても胸が苦しくなったのを忘れられません。そのため、千円札を見るたびに先日のことを思い出します。この機会に私は、千円札をずっと残していきたいと思いました。

出前授業を聞いて、私も野口英世のように強い信念をもって、やるといったことは全力でがんばりたいです。自分にはできそうもないと思うこともありますが、あきらめないでちょう戦しようと思えるようになりました。

これからはどんな小さなことでもがんばろうと思います。校外学習では、もっと野口英世にくわしくなれるようにしたいです。

いろいろ教えていただきありがとうございました。

宮城県仙台市立木町通小学校　６年
鈴木　成 さん

今日はお忙しい中、野口英世の人生についての出前授業をしてくださり、ありがとうございました。

僕は以前、野口英世にあこがれていた時期があり、記念館にも行ったことがあります。今日の授業で、野口英世がお母さんや小林栄先生、渡部鼎先生、血脇守之助先生に支えてもらったことを忘れず、感謝を表すために眠る時間もおしんで努力した話が出ました。その時、小さい頃の自分が野口英世のように、人に感謝できる人間として生きていきたいと考えていたことを思い出しました。

修学旅行の時は、記念館で野口英世についてより深く学び、それを自分の一生の教訓にできたらと思っています。

当日は、どうぞよろしくお願いします。

宮城県仙台市立桜丘小学校　6年
成田　美輝 さん

先日は桜丘小学校六年生のために、野口英世のお話に来ていただきありがとうございました。

出前授業のお話を聞いて、勉強になったことや初めて知ったことがたくさんありました。特に、野口英世の恩師である小林栄先生や血脇守之助先生のことは知らなかったので、また一つ野口英世の人生について知ることができました。

野口英世の家族についてもわかり、他にも、ニューヨークやアクラなど世界中で活躍していました。その中で、どのような研究をしていたのかということもくわしく学ぶことができました。

最後には、野口英世が言った言葉「目的・正直・忍耐」の意味など、本だけでは知ることができないことも教えていただきました。

野口英世記念館でも、たくさんのことを学びたいです。

宮城県富谷市立明石台小学校　6年
小山　結生 さん

今回の出前授業、ありがとうございました。とても優しい声の授業で、沢山のことを学ぶことができました。

印象に残っていることが二つあります。

一つ目は、野口英世と北里柴三郎の関係です。この二人がつながっているとは知らなかったです。千円札の「バトンタッチ」も、すごく良いことなんじゃないかなと思いました。

二つ目は、野口英世の母想いなところです。旅行に連れて行き、美味しいご飯を食べさせてあげていた野口英世のことを、シカさんはどのように想っていたのか、想像がふくらみます。

沢山の人にお世話になって、その恩をしっかり返すところ、ずっと努力をし続けていたその生き方。とても心に残っています。

「天才なんてあるもんか」この言葉は、沢山の人を動かしたと思います。

ありがとうございました。修学旅行が楽しみです。

宮城県気仙沼市立松岩小学校　6年
石渡　夕花 さん

先日は、お忙しい中野口英世出前授業を行なっていただきありがとうございました。野口英世の生涯についてくわしく知ることができました。

特におどろいた事は、野口英世の母、シカについてです。シカの英世を学校に通わせたい強い思いはとてもすてきなことです。熱心に働いているすがたは、だれもがあこがれる母だなと思いました。

野口英世が夢に向かって研究していくところは、他の学者とは違うと感じました。ですが、一番驚いたのは、大やけどからの英世の活やくです。当時、世界的に有名だった黄熱病の研究をした英世は、リスクをおかしてまで研究をして人を助けたい、救いたい気持ちは世界中で一番強かったと思います。

努力はすぐにかなわなくても、いつかかなうということを学びました。自分がうれしかったから、それを相手にもできる英世はすばらしいと思います。野口英世が残していった研究の結果は、今の医療にとても関わっていると思うし、英世の夢は叶ったのかなと思います。

野口英世記念館に行くのがもっと楽しみになりました。

本当にありがとうございました。

宮城県蔵王町立永野小学校　6年
會田　六花 さん

先日の出前授業では、野口英世についてたくさん教えていただきありがとうございました。

話を聞いておどろいた所がありました。それは、野口英世を支えた人達についてです。

英世を大事に育てた家族、学費の負担をして生涯支え続けた小林栄先生、左手を手術してくれた渡部鼎先生、いつも理解し支えてくれた血脇守之助先生。そして、ロックフェラーの科学者や黄熱病研究をしていた科学者達が英世を支え、その中の一人でも欠けたら英世はどうなっていたかということを思いました。

英世自身もいろいろな功績を残し、人のためにつくしたということにおどろきました。

野口英世記念館では、シカからの手紙やアンドロイドの英世も見れそうなので楽しみにしています。

新潟県新潟市立上所小学校　6年
上田　青空 さん

先日は、野口英世について教えてくださりありがとうございました。

私は最初、野口英世は頭が良く、たくさん研究してみんなに愛され続けて生きてきたと思っていました。しかし出前授業の話を聞いて、やけどをしてみんなにからかわれとてもいやな思いをしたけど、たくさんの人に支えられ、どんなことにも一生けんめい勉強や研究をやって生きてきたことがわかりました。そして、試験に落ちてでも、自分から勉強をやり続けるのはとてもすごいことだと思いました。

一番心に残っているのは、出会った人に自分の夢を言葉で伝えているところです。その話を聞いて、

自分の夢を言葉にして誰かに伝えるという大切さを初めて知ることができました。

私も、野口英世のように、夢に向かってできることは一生けんめいあきらめずに進んでいきたいと思います。

新潟県見附市立葛巻小学校　6年
岡田　美礼 さん

先日は、野口英世の生き方と業績について教えていただき、ありがとうございました。

野口英世の家族は五人家族で、最初の名前が「せいさく」ということを知りました。また、野口英世が一才半の時やけどを負い、小学校の友達にいじめられて苦しい日々でしたが、手術を受け、医学の道へと進む強い意志があったことがわかりました。

「志を得ざれば再びこの地を踏まず」と、野口英世が決意した場面が心に残りました。私なら、そのような逆境におちいったら、学校をやめて家でずっと落ち込んでいたかもしれません。野口英世は、きっとあきらめない希望があったからこそ、目標を立て、それに向かって頑張れたんだと思います。

私はこの先、どんなことが起きるのか分かりませんが、自分で目標を立て、そこに向かっていきたいと思います。

リリーベール小学校（茨城県水戸市）　4年
加藤　あいり さん

今回は、野口英世について教えてくださりありがとうございました。心に残ったことが三つあります。

一つ目は、野口英世は左手が不自由にも関わらず小学校に行って、いじめられてもあきらめないで勉強にがんばっていたのですごいと思いました。自分もすぐにあきらめず、さいごまでがんばろうと思いました。

二つ目は、勉強を昼も夜もした結果、高等小学校や医学を学ぶことができるようになったことがすごいと思いました。私も何かにがんばればよいことになると思いました。

三つ目は、医学の道へすすんでたくさんの命を救ったことがすごいと思いました。何もかもあきらめずにチャレンジしていくことで道が開けると思うので、私は野口英世を見習いたいと思いました。

野口英世の人生で、どんなことをやったのか知ることができたのでおもしろかったです。

十月の野口英世記念館が楽しみです。

授業内容を一生懸命メモを取る児童たち

品川区立伊藤学園 六組
「特別支援学級としての取り組み」について

教諭　渡邊　萌香

特別支援学級（知的障害）について

本学級は、特別支援学級（知的障害）で、中学一～三年生が同じ教室で生活しています。学級では日々、生徒たちの『自立』に向けて、社会生活・集団生活という点に重きを置いて指導しています。例えば、挨拶や礼儀、マナーなど、高校卒業後を見据えて社会人になった時に当たり前のことを、当たり前にできることを目標にしています。生徒それぞれに様々な課題はありますが、毎日繰り返し課題に取り組むこと、そして目の前にいる先輩の姿を目標にしたり、同級生から刺激をもらったりしながら生活を進めていくことで、力が育まれています。

宿泊学習に向けた取組

品川区には特別支援学級（知的障害）を設置している中学校が7校あり、例年6月頃に福島県を目的地として、7校連合で宿泊学習を行っています。特別支援学級の生徒たちは、読み取る力や聞く力、臨機応変に対応する力など、様々な課題や特性を抱えています。そのため、大きな行事の前には、事前学習として、どこへ、誰と、どのようにして、何のために、どのような日程で、どのような施設に行くのか、など三日間の行程を入念に確認し、準備を進めます。宿泊当日も大切ですが、『自立』に向けた学習としての意義を高めるためには、この事前の準備がとても大切です。野口英世記念館へは、昨年に続き二回目の訪問でした。中学二・三年生にとっては事前学習も二回目となるので、事前学習を進めていくなかで、一年生には分かりやすい説明を、二・三年生にはより深く、新鮮味がある内容を目指しました。しかし、同じ授業の中でこれらを両立させ、教えるのはとても難しく感じました。そんな時に、野口英世記念館の出前授業があることを知りました。特別支援学級であることに加え、遠方の地である東京での授業を引き受けていただけるのだろうかと思いましたが、快く引き受けてくださいました。

出前授業当日、生徒たちは緊張と楽しみな気持ちが混ざったような様子を見せていました。授業は、テレビにスライドを映しながら行い、写真や画像、音声がたくさん含まれており、とても分かりやすいものでした。また、難しい漢字にはふりがなが振ってあり、六組の生徒たちの事をよく考え、工夫していただいている授業で、生徒たちは最後まで興味津々でお話を聞いていました。そして、宿泊学習当日、生徒たちは出前授業で聞いた○○○を探してみよう！」「見つけた！これだ！すごい！」と、昨年とは違った様子が印象的でした。また、出前授業の時にいただいた野口英世のバッチを、みんな自慢気に身につけ、他の学校の生徒に授業で教えてもらったことを伝えている場面も見られました。

『野口英世』という名前は、特別支援学級の生徒たちにとっては正直あまり馴染みがなく、旧紙幣の千円札の人だよと伝えると分かる程度です。しかし、生徒たちは今回学習・見学をして、『野口英世』への興味や、医学への関心を高めることができました。そしてこれは、職員の方の熱意と創意工夫を凝らした授業の賜物だと強く感じました。

本当にありがとうございました。

出前授業の様子

令和6年度に出前授業を行った学校は次の通りです。

福島県

会津若松市立謹教小学校
会津若松市立小金井小学校
会津若松市立東山小学校
大玉村立玉井小学校
郡山市立開成小学校
郡山市立桃見台小学校
中島村立滑津小学校
塙町立塙小学校
福島市立鎌田小学校
福島市立瀬上小学校
福島市立庭坂小学校
南相馬市立原町第一小学校
矢吹町立三神小学校

宮城県

宮城教育大学付属小学校
石巻市立稲井小学校
石巻市立開北小学校
石巻市立釜小学校
石巻市立飯野川小学校
石巻市立大谷地小学校
石巻市立鹿妻小学校
石巻市立鹿又小学校
石巻市立大街道小学校
石巻市立二俣小学校
石巻市立住吉小学校
石巻市立貞山小学校
石巻市立中里小学校
石巻市立中津山第一小学校
石巻市立広渕小学校
石巻市立湊小学校
石巻市立桃生小学校
石巻市立北村小学校
石巻市立和渕小学校
大崎市立田尻小学校
大崎市立三本木小学校
大崎市立古川第一小学校
大崎市立古川第三小学校
大崎市立古川北小学校
大崎市立沼部小学校
角田市立横倉小学校
加美町立鳴瀬小学校
加美町立西小野田小学校
加美町立東小野田小学校
加美町立広原小学校
川崎町立川崎小学校
川崎町立富岡小学校
栗原市立金成小学校
栗原市立栗駒小学校
栗原市立志波姫小学校
栗原市立築館小学校
栗原市立鶯沢小学校
気仙沼市立気仙沼小学校
気仙沼市立鹿折小学校
気仙沼市立新城小学校
気仙沼市立面瀬小学校
気仙沼市立松岩小学校
蔵王町立円田小学校
蔵王町立永野小学校
蔵王町立平沢小学校
塩竈市立月見ヶ丘小学校
色麻町立色麻学園
七ヶ宿町立七ヶ宿小学校
七ヶ浜町立汐見小学校
七ヶ浜町立松ケ浜小学校
柴田町立柴田小学校
柴田町立船岡小学校
柴田町立東船岡小学校
白石市立越河小学校
白石市立小原小学校
白石市立大鷹沢小学校
白石市立大平小学校
白石市立白石第一小学校
白石市立白石第二小学校
仙台市立旭丘小学校
仙台市立沖野東小学校
仙台市立荒井小学校
仙台市立荒巻小学校
仙台市立荒町小学校
仙台市立岩切小学校
仙台市立蒲町小学校
仙台市立折立小学校
仙台市立桂小学校
仙台市立鹿野小学校
仙台市立加茂小学校
仙台市立川平小学校
仙台市立北仙台小学校
仙台市立北中山小学校
仙台市立北六番丁小学校
仙台市立木町通小学校
仙台市立国見小学校
仙台市立黒松小学校
仙台市立古城小学校
仙台市立小福岡小学校
仙台市立幸町南小学校
仙台市立桜丘小学校
仙台市立将監小学校
仙台市立四郎丸小学校
仙台市立台原小学校
仙台市立高砂小学校
仙台市立高森東小学校
仙台市立田子小学校
仙台市立立町小学校
仙台市立燕沢小学校
仙台市立鶴が丘小学校
仙台市立鶴巻小学校
仙台市立寺岡小学校
仙台市立遠見塚小学校
仙台市立鶴谷東小学校
仙台市立長町小学校
仙台市立長命ヶ丘小学校
仙台市立七北田小学校
仙台市立錦ケ丘小学校
仙台市立西山小学校
仙台市立原町小学校
仙台市立東仙台小学校
仙台市立枡江小学校
仙台市立松森小学校
仙台市立南小泉小学校
仙台市立南材木町小学校
仙台市立南光台小学校
仙台市立宮城野小学校

仙台市立向山小学校
仙台市立吉成小学校
仙台市立連坊小路小学校
仙台市立六郷小学校
仙台市立若林小学校
大和町立吉岡小学校
大和町立鶴巣小学校
多賀城市立天真小学校
富谷市立明石台小学校
富谷市立富谷小学校
富谷市立日吉台小学校
登米市立冨里小・中学校
登米市立浅水小学校
登米市立佐沼小学校
登米市立新田小学校
登米市立米山東小学校
登米市立米谷小学校
登米市立錦織小学校
登米市立西郷小学校
登米市立南方小学校
登米市立宝江小学校
名取市立館腰小学校
名取市立愛島小学校
名取市立ゆりが丘小学校
東松島市立赤井小学校
東松島市立大塩小学校
東松島市立大曲小学校
東松島市立成瀬桜華小学校
東松島市立矢本東小学校
松島町立松島第一小学校
松島町立松島第二小学校
松島町立松島第五小学校
丸森町立丸森小学校
美里町立青生小学校
美里町立南郷小学校
美里町立不動堂小学校
南三陸町立伊里前小学校
南三陸町立入谷小学校
南三陸町立名足小学校
山元町立坂元小学校
山元町立山下第二小学校
利府町立利府小学校
利府町立しらかし台小学校
亘理町立吉田小学校
亘理町立亘理小学校

新潟県

小千谷市立千田小学校
加茂市立石川小学校
加茂市立加茂南小学校
佐渡市立河原田小学校
佐渡市立金井小学校
佐渡市立二宮小学校
佐渡市立畑野小学校
佐渡市立八幡小学校
佐渡市立両津吉井小学校
三条市立須頃小学校
三条市立大面小学校
三条市立長沢小学校
三条市立保内小学校
田上町立田上小学校
燕市立大関小学校
燕市立小池小学校
燕市立分水小学校
長岡市立柿小学校
長岡市立寺泊小学校
長岡市立福戸小学校
長岡市立宮内小学校
新潟市立味方小学校
新潟市立岩室小学校
新潟市立五十嵐小学校
新潟市立江南小学校
新潟市立黒崎南小学校
新潟市立潟東小学校
新潟市立小須戸小学校
新潟市立小瀬小学校
新潟市立上所小学校
新潟市立大鷲小学校
新潟市立木戸小学校
新潟市立内野小学校
新潟市立新津第三小学校
新潟市立新津第二小学校
新潟市立濁川小学校
新潟市立白山小学校
新潟市立早通南小学校
新潟市立東中野山小学校
新潟市立東山の下小学校
新潟市立巻南小学校
新潟市立有明台小学校
新潟市立横越小学校
新潟市立牡丹山小学校
新潟市立両川小学校
見附市立新潟小学校
見附市立葛巻小学校
見附市立名木野小学校
南魚沼市立赤石小学校
村上市立村上南小学校

埼玉県

小川町立竹沢小学校
川島町立伊草小学校
久喜市立小林小学校
白岡市立南小学校
杉戸町立杉戸第二小学校
草加市立両新田小学校
草加市立西町小学校
所沢市立富岡小学校
蓮田市立黒浜北小学校
三郷市立丹後小学校
宮代町立百間小学校

栃木県

宇都宮市立雀宮東小学校
小山市立羽川小学校
小山市立寒川小学校
上三川町立本郷北小学校
栃木市立合戦場小学校
那須塩原市立埼玉小学校

茨城県

取手市立宮和田小学校
リリーベール小学校

山形県

寒河江市立寒河江中部小学校
寒河江市立高松小学校
酒田市立浜田小学校

千葉県

我孫子市立我孫子第一小学校

東京都

江戸川区立北小岩小学校
江戸川区立第二葛西小学校
品川区立伊藤学園

令和6年度の受け入れ資料

○結核予防会編「創立八十年史」
（東京都・公益財団法人結核予防会）

○『北里ワクチン小史　平成編』
「北里柴三郎通信」特集号
（東京都・（一社）北里柴三郎記念会）

○論考「リョコウバトの日本人画家と野口英世」
川端裕人著『おしゃべりな絶滅動物たち　会えそうで会えなかった生きものと語る未来』
（東京都・川端裕人氏）

寄贈者が岩波書店の雑誌『図書』に「絶滅をめぐる物語」として連載した論考。絶滅したリョコウバトを描いた博物画家「K.Hayashi」が、野口英世がウッズホールで親交のあった留学生の林謙吉であろうことを紹介する。

○新型コロナ流行時配布　布製マスク
（福島県・浅川彩乃氏）
（福島県・大石美香氏）

○写真「三浦環と写る野口英世」
（山梨県・山中湖村教育委員会）

オペラ歌手三浦環と野口英世がパーティーの中の集合写真で一緒に写る画像。山中湖文学の森・徳富蘇峰記念館で開催された三浦環生誕140周年、旧中野村疎開80周年記念特別展「三浦環をめぐる人たち」で紹介された。

○まんが『帰郷おかえりなんしょ野口博士』
（福島県・猪苗代の偉人を考える会）

○日本銀行券E千円券最終番号券・感謝状
（東京都・日本銀行）

２０２４年７月３日の新札発行に際し、これまでの日本銀行券の広報への貢献により、感謝状と最終製造のＥ千円券（HM30000A）が贈呈された。
（27頁参照）

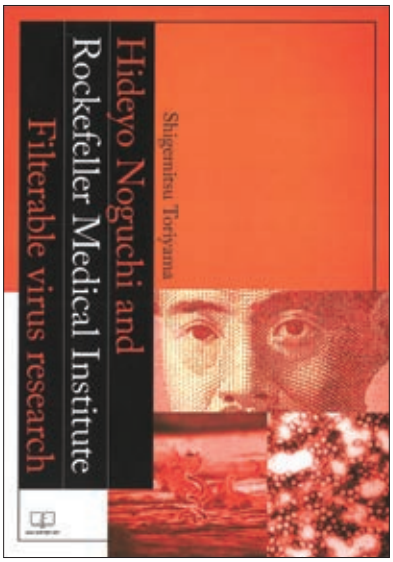
○野口英世感謝状
（福島県・猪苗代町）

千円札の肖像として、ふるさと猪苗代の知名度向上や日本経済の発展に寄与したとして猪苗代町より野口英世へ感謝状が贈られた。
（28頁参照）

○『小林榮ふるさと記念館別館解説書』
（福島県・小林俊治・佑子氏）

○鳥山重光著
“Hideyo Noguchi and Rockefriller medical Institute Filetrable virus research、
（広島県・鳥山重光氏）

寄贈者の２０２１年刊行の著書『野口英世とロックフェラー医学研究所の濾過性ウイルスの研究』の英文翻訳版。電子書籍として刊行されたもののオンデマンドプリント版。



○ペルーヒデヨノグチ学園ファナ・ミヤシロ校長インタビュー記事
（福島県・クレアリー寛子氏）

○神　通盛　賞状・辞令（画像データ）
（神奈川県・神秀樹氏）

○『野口英世氏往復文通』
（福島県・八子弥寿男氏）

○信濃毎日新聞社『記憶を拓く　信州半島世界』
（長野県・井口賢太氏）

信濃毎日新聞で連載された日韓関係の歴史と未来を考える連載企画で、長野出身で日本住血吸虫症の解明に尽力した宮入慶之助博士や、寄生虫感染症の対策を日韓ならびに世界の研究者の協力で行った事例を紹介している。

本年も多くの方々より資料の寄贈、情報提供をいただきました。この場を借りましてお礼を申し上げます。
野口英世に関する資料や情報などございましたら、ご一報いただきたくお願いいたします。

令和6年度　主な行事

令和6年

3月20日～令和7年3月16日　企画展「野口英世と恩師北里柴三郎の絆」

4月16日　第66期野口英世記念奨学生証贈呈式

4月23日　第1回資金運用委員会（書面審議）

5月21日　第95回野口英世博士命日祭

6月1日　第1回理事会

6月16日　第1回評議員会

6月22日　自然系高校部活動助成金選考会

6月25日　自然系高校部活動助成事業対象校発表

7月3日　新千円札発行・最終製造番号贈呈式

7月4日　猪苗代町から感謝状贈呈式

7月21日　野口英世記念医学賞選考委員会

8月9日　救世観音祭礼

9月2日～13日　博物館実習受け入れ

9月4日　野口英世博士顕彰記念町内小中学校芸術鑑賞祭
於学びいな

9月7日　第2回資金運用委員会

9月25日　野口英世博士顕彰記念小学校体育祭
於猪苗代町運動公園

10月3日　野口英世博士顕彰記念少年科学賞審査会
於至誠館

11月9日　第148回野口英世誕生祭

11月9日　第30回野口英世博士顕彰記念少年科学賞授賞式

11月9日　第63回野口英世博士顕彰記念作文コンクール授賞式

11月16日　第67野口英世記念医学賞　授与式

11月18日　駐ガーナ日本国大使　義本　博司氏来館

11月29日　野口賞　医療活動分野関係者　視察訪問

12月1日～令和7年3月15日　感染症ミュージアム　冬季休館

12月3日　第23回母から子への手紙コンテスト表彰式
於学びいな

12月7日　奨学生選考委員会

12月26日　野口英世記念会賞　表彰式

12月29日～1月3日　年末年始休館

令和7年

1月10日　団子さし

1月21日　野口英世博士顕彰記念小学校スキー大会
アルペンの部　於猪苗代スキー場

2月3日　節分豆まき

2月6日～9日　大雪のため臨時休館

2月5日　第3回資金運用委員会

3月1日　第2回理事会（オンライン）

3月16日　第2回評議員会

令和7年度　主な行事予定

令和7年

3月20日～令和8年3月15日　企画展「野口英世15年ぶりの帰国」

4月20日　令和7年度奨学生証贈呈式

5月21日　第96回野口英世博士命日祭

6月　第1回理事会

6月　第1回評議員会

8月9日　救世観音祭礼

9月4日　野口英世博士顕彰記念小中学校芸術祭

9月25日　野口英世博士顕彰記念小学校体育祭

11月8日　第68回野口英世記念医学賞授賞式

11月9日　第149回野口英世誕生祭

11月9日　第31回野口英世博士顕彰記念少年科学賞授賞式

11月9日　第64回野口英世博士顕彰記念作文コンクール授賞式

12月　第24回母から子への手紙コンテスト表彰式

令和8年

1月14日　団子さし

2月3日　節分豆まき

2月5日　野口英世博士顕彰記念小学校スキー大会

3月　第2回理事会

3月　第2回評議員会

出前授業に行きます！

科学者 野口英世の魅力をお話します。

野口英世記念会の職員が修学旅行・遠足などで来館される小・中学校に出かけて、野口英世の生涯と研究業績を、スライドを使ってわかりやすくお話しします。
経費はすべて当会が負担します。

出前授業のお申込みは、ホームページの「出前授業申込書」をダウンロードして、必要事項を記入のうえFax（0242－23－7122）してください。

ご寄付のお願い

皆様におかれましては、日頃より公益財団法人野口英世記念会の事業にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

野口英世記念会は、設立以来、野口英世の偉業を記念しこれを後世に伝えるべく今日まで活動してまいりました。また、野口英世記念医学賞の授与、野口英世記念奨学金の貸与・給付、そして学校や地域の社会教育・文化活動への様々な支援を行ってまいりました。

平成27年には野口英世記念館をリニューアルし、令和4年7月に日本初の感染症に特化した博物館として野口英世記念感染症ミュージアムを新たに開館いたしました。多くのお客様に、野口英世の偉業と感染症について理解を深める一助としていただきたいと存じます。

当記念会は、野口英世の生涯と業績をより多くの人々に知って頂くだけでなく、今後なお一層の社会貢献を進めてまいる所存であります。

つきましては、皆様には当記念会の活動に重ねてご理解をいただき、なお一層の活動充実のため、ご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人野口英世記念会

寄付の申込方法

- 銀行振込、郵便振替でご寄付の方は、下記の「寄付申込書」に必要事項をご記入いただき、郵便、FAXまたはE-mailでお送り下さい。当会より、振込の案内を送付します。
- クレジットカード決済でご寄付の方は、右記の二次元バーコードを読み取っていただき、案内にしたがって情報をご入力し、お支払い手続きを行ってください。
- 3,000円以上のご寄付を頂いた方は寄付者銘板に芳名を掲載します。掲載を希望されない方はお申しつけ下さい。

- ご寄付の特典
  - 3,000円以上の方：招待券1枚
  - 6,000円以上の方：招待券2枚
  - 15,000円以上の方：野口英世関連商品［2,000円相当］招待券2枚
  - 30,000円以上の方：野口英世関連商品［5,000円相当］招待券2枚
  - 60,000円以上の方：野口英世関連商品［10,000円相当］招待券4枚
- ご寄付頂いた寄付金は税法上の優遇措置として税額控除または所得控除の対象となります。住民税についても、都道府県又は市区町村の条例指定により税額控除の対象となる場合があります。詳しくは、お住いの都道府県・市区町村にご確認ください。（当団体に対する寄付金は、福島県の条例指定対象寄付金です。）

寄　付　申　込　書

寄付金額　　金　　円

ふりがな	
氏　　名	印
住　　所	〒
電話番号	
E-mail	@

◎ ご記入いただきました寄付申込書は、下記事務局まで郵便、FAXまたはE-mailでお送り下さい。

事務局
公益財団法人 野口英世記念会
〒969-3284　福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81番地
TEL:0242-85-7867
FAX:0242-23-7122
E-mail:office@noguchihideyo.or.jp

公益財団法人野口英世記念会

野口英世記念館・野口英世記念感染症ミュージアム案内

【設　立】

1939年（昭和14）5月21日　野口英世記念館　開館
1954年（昭和29）福島県第1号登録博物館
2022年（令和4）7月2日
野口英世記念感染症ミュージアム開館

【沿　革】

1928年（昭和3）5月21日野口英世博士が西アフリカで殉職した翌月、日本工業倶楽部で行われた追悼会に際し、「野口英世博士記念会」（記念会）が設立された。

記念会は、翌年に生家の保存と二つの記念碑を建立、1938年（昭和13）には、文部大臣より財団法人の設立が許可され、その翌年の博士の命日に「野口英世記念館」が開館した。

記念会は、2013年（平成25）4月、公益財団法人に移行し、2015年（平成27）4月には、新展示館をリニューアルオープンした。

2019年（平成31）3月、生家が国の登録有形文化財に登録された。

2022年（令和4）7月、「野口英世記念感染症ミュージアム」が開館した。

《ご利用案内》

◆開館時間

4月～10月
午前9時～午後5時30分
11月～3月
午前9時～午後4時30分
ただし最終入館は閉館30分前まで

◆休館日

〈野口英世記念館〉
年末年始（12月29日～1月3日）
〈感染症ミュージアム〉
12月1日～3月15日　冬季休館

◆入館料金

〈記念館・感染症ミュージアム共通券〉

○個人料金	
大人	1200円
こども（小中学生）	550円
○団体料金（20名以上）	
大人	1100円
こども	450円
○学生団体（学校引率）	
小中学生	450円
大学・高校・各種学校	800円

〈冬季記念館入館券〉

○個人料金	
大人	800円
こども（小中学生）	400円
○団体料金（20名以上）	
大人	700円
こども	300円
○学生団体（学校引率）	
小中学生	300円
大学・高校・各種学校	500円

（2025年4月現在）

お問い合わせ

福島県耶麻郡猪苗代町三ツ和字前田81
電話　0242（65）2319
ホームページ
https://www.noguchihideyo.or.jp

野口英世記念会報　第70号

公益財団法人野口英世記念会

発行日　2025年4月1日
発行人　倉根　一郎
編集人　山本　えりか

〒969－3284
福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81
公益財団法人野口英世記念会
電話　0242（85）7867
FAX 0242（23）7122
E-mail　office@noguchihideyo.or.jp

公益財団法人 野口英世記念会